

シンガポールにおける鶏卵市場 調査 実施報告書

令和 6 年 2 月

日本養鶏協会

目 次

第 1 章 シンガポールの概要 ----- 4

1. シンガポールの地理的・経済的概要

(1)シンガポールの地理的特徴

(2)基本情報(国土面積、人口、気候区分、政治体制・国内政治)

(3)経済、貿易概況(GDP 成長率、一人当たり GDP、所得水準、今後の見通しなど)

2. シンガポールの農業・畜産概況

第 2 章 シンガポールにおける鶏卵の生産と流通----- 10

1. シンガポールにおける鶏卵の生産と流通

(1)殻付き鶏卵の生産概況

(2)殻付き鶏卵の生産実態（事例）

(3)シンガポールで流通する卵製品

(4)各種認証ロゴマーク

2. 主な養鶏・鶏卵関連企業

(1) N&N Agriculture Pte.Ltd.

(2) Chew's Agriculture Pte. Ltd.

(3) Seng Choon Pte.Ltd.

3. 鶏卵輸入に関する規則

第 3 章 貿易動向----- 23

1. 鶏卵の輸出入動向

(1)鶏卵の国別輸入推移

(2)鶏卵の国別輸出推移

2. 鶏卵関連製品の輸出入動向

(1)鶏卵関連品の品目別・国別輸入推移

(2)鶏卵関連製品の品目別輸出推移

第 4 章 鶏卵の販売動向-----29

1. 一般スーパー・量販店における流通

2. 日系スーパーにおける流通
3. 伝統市場における流通
4. レストランでの卵の流通

第5章 業界関係者からのヒアリング-----45

1. 大手鶏卵販売業者 A 社
2. 主要鶏卵加工品販売代理店 B
3. 日系大手高級スーパーC
4. 日本料理店 D

第6章 まとめ-----52

1. シンガポールにおける鶏卵の需給動向
2. 日本産鶏卵のシンガポールへの輸出拡大に向けた課題

参考文献-----54

注釈：

- ・本調査報告書内におけるシンガポールドル（以下、SGD）の日本円レートは、2025年1月27日現在のみずほ銀行外国為替参考相場仲値を使用し、1 SGD を 115.51 円として換算した。
- ・本調査報告書内の写真について、出典記載のないものは Jupiter Global Limited の撮影による。

第 1 章 シンガポールの概要

1. シンガポールの地理的・経済的概要

(1) シンガポールの地理的特徴

シンガポール共和国（以下、シンガポール）は、東南アジアのマレー半島の南端に位置し、北はジョホール海峡とマレーシア海峡、南はシンガポール海峡とインドネシア海峡に接している。日本からの距離は約 5,000km で、時差は－1 時間である。シンガポールの国土は、シンガポール本島と、ジュロン島やユービン島など、60 以上の小さな島々で構成されている。



出典：Google マップをもとに作成

(2) 基本情報（国土面積、人口、気候区分、政治体制、国内政治）

国土面積は 735 平方キロメートル（東京 23 区より少し大きい）、人口は 585 万人（2025 年 1 月時点）であり、このうちシンガポール国民と永住者は 403 万人で、総人口の約 3 分の 1 にあたる 165 万人が外国人である。英語、北京語、マレー語、タミル語が公用語として指定されているが、政府のウェブサイトおよび文書、ビジネスにおけるコミュニケーションには英語が用いられており、英語が事実上の公用語と広く見なされている実態がある。民族構成は中国系が 74.0%と圧倒的に多く、次いでマレー系が 13.5%、インド系が 9.0%と、中国人を中心とした多民族国家となっている。主な宗教は、仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教である。

1824 年、シンガポールは英国の植民地となるが、第二次世界大戦中の 1942 年から 1945 年まで日本によって侵攻され、占領された。1945 年に日本が降伏した後、シンガポールは再び英国の支配下に戻るが、1955 年に英国から部分的な自治権を獲得する。その後 1963 年にはマレーシア成立に伴ってその一州として合併するが、1965 年にマレーシアからも分離して独立国となった。

外交面について、シンガポールは様々な国と強力な外交関係を維持しており、東南アジア諸国連合（ASEAN）などの地域組織にも積極的に参加している。また、自由貿易への取組から主要な海運ハブとして知られる（表 1－1、1－2）。

表 1 - 1 一般情報

面積	735.2平方キロメートル
人口	585万人（2025年1月27日）
気候	熱帯雨林気候（Af）
民族	中国人（74.0%）、マレー人（13.5%）、インド人（9.0%）、その他（3.4%）（2023年現在）
言語	英語、中国語、マレー語、タミル語ほか
宗教	仏教、イスラム教、ヒンドゥー教、道教、キリスト教ほか
通貨	シンガポールドル（SGD）
為替レート	1シンガポールドル = 115.51円（2025年1月27日）
在留邦人数	32,565人（2024年10月1日現在、外務省「海外在留邦人数調査統計」）
日系経済団体	シンガポール日本商工会議所（JCCI）785社（2023年12月時点）

出典：JETRO ウェブサイト、外務省「海外在留邦人数調査統計」、みずほ銀行外国為替公示相場、シンガポール日本商工会議所

表 1 - 2 政治体制と国内政治

政体	立憲共和制
国家元首	ターマン・シャムガラトナム大統領 Tharman SHANMUGARATNAM（2023年9月14日就任）
首相	ローレンス・ウオン Lawrence Wong（2024年5月15日就任）
議会制度	一院制
議会概要	定数93名（選挙区選出議員）のうち、与党・人民行動党83議席、野党10議席（労働者党）、任期5年。他に、重要法案の投票権がない議員（野党非選出議員2名、任命議員9名）で構成。

出典：JETRO ウェブサイト

（3） 経済、貿易概況（GDP 成長率、一人当たり GDP、所得水準、今後の見通しなど）

シンガポールは 1960 年から 1990 年代までの急速な工業化で、韓国、台湾、香港と並ぶアジア四小龍として知られており、世界をリードする国際金融センター、ならびに東南アジアのテクノロジーハブとしての地位を確立している。例えば DBS は、テクノロジー主導のサービスを提供するシンガポールの銀行であり、1968 年以来、シンガポールの成長に資金を提供してきた主要な消費者銀行の 1 つとして国際的にもよく知られている。このようなシンガポールの成長には、内資・外資問わず全ての企業に対して一律の法人税率（17%）が採用されていること、外国投資に対する制限がないこと、コモンローに基づく明瞭な法制度、政治的および社会的安定、主要な貿易ルートとしての地理的位置などによるアドバンテージが大きく影響している。

国内総生産（GDP）について、2023 年の成長率は前年と比較して減少し前年比 1.1%、2024 年は速報値で前年比 4.0%となっているが、IMF の見通しでは将来的には約 2.5%に落ち着くと予想されている。一人あたり各目 GDP は、2021 年に 79,601US ドルを超え、2022 年は 88,428US ドル、香港、日本を上回り、産油国を除くアジアのトップ、世界でも屈指の高所得国となっており、今後も成長することが見込まれている。

表 1－3 各種経済指標

項目	単位	2021	2022	2023	備考
実質GDP成長率	%	9.7	3.8	1.1	
名目GDP総額	10億 USD	434.1	498.5	501.4	
一人当たりの名目GDP	USD	79,601	88,429	84,734	
消費者物価上昇率	%	2.3	6.1	4.8	
失業率	%	2.7	2.1	1.9	
輸出額	100万 USD	794,470	925,950	873,990	四捨五入により小数点以下が一致しない
対日輸出額	100万 USD	8,843	9,845	8,626	四捨五入により小数点以下が一致しない
輸入額	100万 USD	637,160	733,880	686,660	四捨五入により小数点以下が一致しない
対日輸入額	100万 USD	20,027	22,340	18,810	四捨五入により小数点以下が一致しない
経常収支	100万 USD	65,774	△ 117,084	62,064	
貿易収支	100万 USD	121,001	154,327	157,619	国際収支ベース
外貨準備高（グロス）	100万 USD	309,169	215,294	266,215	
対外債務 残高（グロス）	100万 USD	18,866,600	1,938,930	1,997,003	
対米ドル 為替レート	SGD	1.4	1.3	1.3	期中平均値

出典：JETRO ウェブサイト、マクロトレンド“Singapore Imports”、マクロトレンド“Singapore Exports”

世帯内に少なくとも 1 人以上のシンガポール国籍あるいは永住権を持つ人を含む世帯における 2023 年の勤労世帯の月収中央値は、10,869 SGD（約 126 万円）であり、2018 年から 2023 年にかけて累計で 3.1%増加している。また、2023 年の世帯一人当たりの月収中央値は 3,500 SGD（約 40 万

円)であり、2018 年と比較して累計 10.5%の増加が見られ、一人当たりの収入額はさらに上昇傾向である。

支出について、シンガポール統計局が 5 年ごとに実施する「家計支出調査」に基づき、月間支出区分の構成について分析する。支出分類別では、2017-18 年を見ると住宅関連費用が 28.9%と最も高く、次いで食費（外食を含む）が 20.3%、交通費が 13.2%となっており、これら上位 3 つのカテゴリーを合わせると全体の 6 割以上を占めている。過去 2 回（10 年分）の調査と比較すると、住宅関連費用、健康関連（医療）費用、教育サービス費用は大幅に上昇したが、食費と交通費は比較的同じ水準を保っている（表 1－4）。

表 1－4 家計の商品・サービスの種類別平均家計支出 (単位:SGD)

	2007-08	2012-2013	2017-18		2007/08 対 2017/18
	支出額	支出額	支出額	構成比	
住居関連費	1,169	1,734	1,706	28.9%	145.9%
食費	949	1,188	1,199	20.3%	126.3%
交通費	700	811	781	13.2%	111.6%
文化・リクリエーション	383	399	379	6.4%	99.0%
教育サービス	235	310	339	5.7%	144.3%
健康	218	261	323	5.5%	148.2%
コミュニケーション	210	217	240	4.1%	114.3%
被服費	143	156	123	2.1%	86.0%
宿泊サービス	33	40	70	1.2%	212.1%
その他	393	656	744	12.6%	189.3%
合計	4,433	5,772	5,904	100.0%	133.2%

※住居関連費には帰属家賃を含む

出典：シンガポール統計局「家計調査の主要指標」

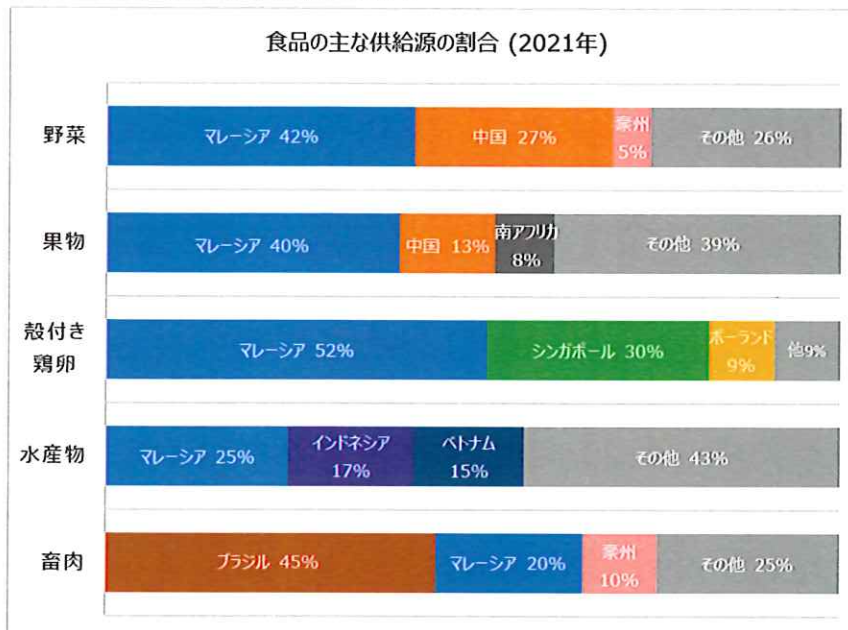
2. シンガポールの農業・畜産概況

シンガポールは人口 585 万人、東京 23 区より少し大きい程度の面積を持つ都市国家であり、農地は国土面積の 0.9%と非常に限られているため、国民の食料供給の 9 割を輸入品が占めている。輸入元は地理的要因から、主にマレーシアや中国などの近隣諸国が中心ではあるものの、国際問題や気候変動などの様々なりリスクに備えるべく、シンガポール食品庁（以下、SFA）は食料輸入元の多様化に積極的に取り組んでいる。結果、2004 年から 2023 年にかけて貿易相手国は 140 カ国から 187 カ国まで増加した。なお、家畜、肉、卵製品の輸入については、2023 年時点では 41 の国・地域が許可されている。

2021 年の食品の主な供給源（重量ベース）とその割合について、表 1－5 にまとめる。野菜はマレーシアが 42%、中国が 27%、オーストラリアが 5%、果物はマレーシアが 40%、中国が 13%、南アフリカが 8%となっており、どちらもマレーシア産が多くを占める。殻付き鶏卵についても、マレーシアが 52%と過半数を占めるが、殻付き鶏卵はシンガポール国内でも多く生産されているため、自国供給量も 30%と高い数値を示している。水産物は、マレーシアが 25%、インドネシアが 17%、ベトナムが 15%。鶏肉、豚肉、牛肉、羊肉を含む

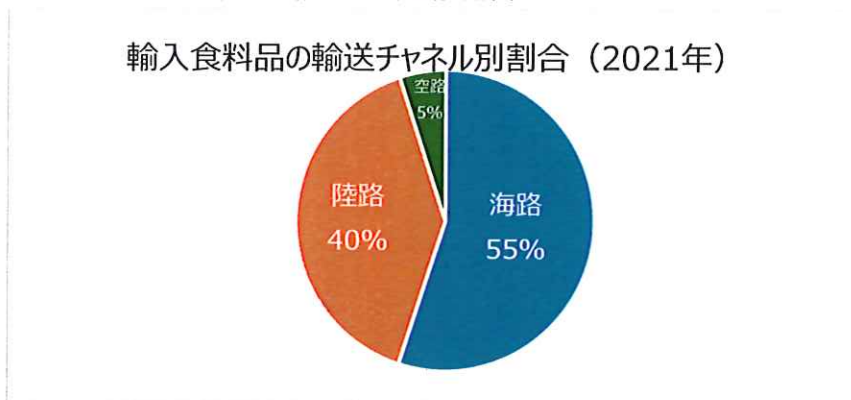
畜肉は、ブラジルが 45%と多く、次いでマレーシアが 20%、オーストラリアが 10%となっている。なお食料品は、55%が海路、40%が陸路、5%が空路からと、多様なチャネルを介して輸入される。

表 1 - 5 食品の主な供給源の割合



出典：シンガポール食品庁 (SFA) 2021

表 1 - 6 輸入食料品の輸送チャネル別割合



出典：シンガポール食品庁 (SFA) 2021

しかしながら、近年は政府の発信する「30 by 30」というスローガンに基づき、食料自給率の向上のための取組も積極的に進められており、シンガポール国内での生産量も着実に成長を続けている。「30 by 30」の1つめの 30 は、国内食料自給率 30%達成を目指してシンガポールにおける農産物生産能力を強化することを意図し、2つめの 30 は 2030 年を表している。

SFA の報告によると、2020 年から 21 年にかけての食品現地生産総額は 1 億 6,340 万 SGD (約 188.7 億円) から 1 億 8,520 万ドル SGD (213.9 億円) となり、13.3%の増加となった。

殻付き鶏卵は、特に生産量を増やしている品目の一つである。政府の計画に基づき、最新の IT 技術を積極的に導入・活用した生産処理能力の向上や積極的な投資による施設面積の拡大が進んでいることが主な

要因として挙げられる。2019 年の殻付き鶏卵の国内生産量は、国内総消費量のうち 25.5%を記録し、2023 年にはさらにこの伸長を上回って、31.5%まで上昇している。なお、生産量ベースでは、2022 年実績と比較して 2023 年には 12.4%増加していた（表 1－7、1－8）。

一方、水産物と野菜の生産量は 2022 年から 2023 年にかけてそれぞれ 6.8%、15.0%減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による農地の開発遅延、インフレ圧力による業績不振やそれに伴う農場移転、エネルギー価格の上昇、人件費の高騰など、様々な事象が組み合わさったことで、農業従事者が苦しんでいる現状を示唆している（表 1－9）。

SFA は、エネルギー価格上昇の影響を軽減することを目的に、エネルギー効率の高い技術の導入に活用できる補助基金を 2023 年 4 月から設置した。2023 年末までに、SFA は 60 件のプロジェクトに対し 2,300 万 SGD（約 26.6 億円）以上を割り当てているほか、継続的な農業従事者の育成支援にも積極的に力を入れているという。

表 1－7 国内総消費量に占める国内現地生産量・割合（年度別）

	2019	2020	2021	2022	2023
殻付き鶏卵	25.5%	27.7%	30.1%	28.8%	31.5%
水産物	7.9%	6.8%	8.0%	7.6%	7.3%
野菜	4.5%	4.1%	4.3%	3.9%	3.2%

出典：シンガポール食品統計 2021、2023

表 1－8 殻付き鶏卵の年度別現地生産（単位:百万個）

	2019	2020	2021	2022	2023
殻付き鶏卵	528.0	615.9	643.6	609.0	678.0

出典：シンガポール食品庁（SFA） 2021、2023

表 1－9 食品の年度別現地生産量（単位:トン）

	2019	2020	2021	2022	2023
水産物	5,300	4,600	5,100	4,400	4,100
野菜	24,300	22,800	23,500	19,900	16,900

出典：シンガポール食品庁（SFA） 2021、2023

シンガポールでは、農業への新たなテクノロジーの導入が意欲的に進められている。テクノロジーは農場の生産効率を改善するための重要なキーポイントだと考えられており、積極的なアグリテックの活用が進む。例えば、シンガポール初のスマート浮体式養魚場である Aquaculture Technologies は、100 万 SGD（約 1.16 億円）を投じた統合人工知能（AI）とビデオ分析システムを備え、魚の病気を検出し、その成長率を追跡することが可能である。また持続可能な食料確保のために、様々な大学や研究機関と連携した新たな代替食品の研究・開発も多く進められている。「30 by 30」達成を目指し、シンガポールの食料生産能力の向上への取組が多角的に進められている。

第 2 章 シンガポールにおける鶏卵の生産と流通

1. シンガポールにおける鶏卵の生産

(1) 殻付き鶏卵の生産概況

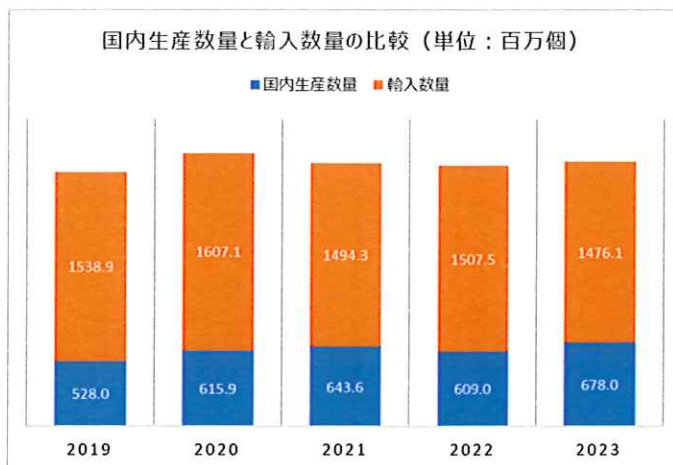
シンガポールは食料需給の大部分を輸入に頼っているが、殻付き鶏卵は比較的国内自給率の高い品目である。殻付き鶏卵の現地生産量は、2019 年から 2023 年までの 5 年間で 5 億 2,800 万個から 6 億 7,800 万個まで大きく増加しており、それに伴って国内の鶏卵総消費量に占めるシンガポール産の割合は、2019 年の 25.5%から 2023 年には 31.5%まで伸長した。そのため、国外産（輸入）鶏卵が占める割合は 74.5%から 68.5%まで減少した。

表 2 - 1 殻付き鶏卵国内生産量と輸入数量の年別比較（単位：百万個）

	国内生産数量	輸入数量	輸入数量	国内生産数量 構成比	輸入数量 構成比
2019	528.0	1538.9	2066.9	25.5%	74.5%
2020	615.9	1607.1	2223.0	27.7%	72.3%
2021	643.6	1494.3	2137.9	30.1%	69.9%
2022	609.0	1507.5	2116.5	28.8%	71.2%
2023	678.0	1476.1	2154.1	31.5%	68.5%

出典：シンガポール食品統計 2021、2023

表 2 - 2 殻付き鶏卵の国内生産数量と輸入数量の年別比較

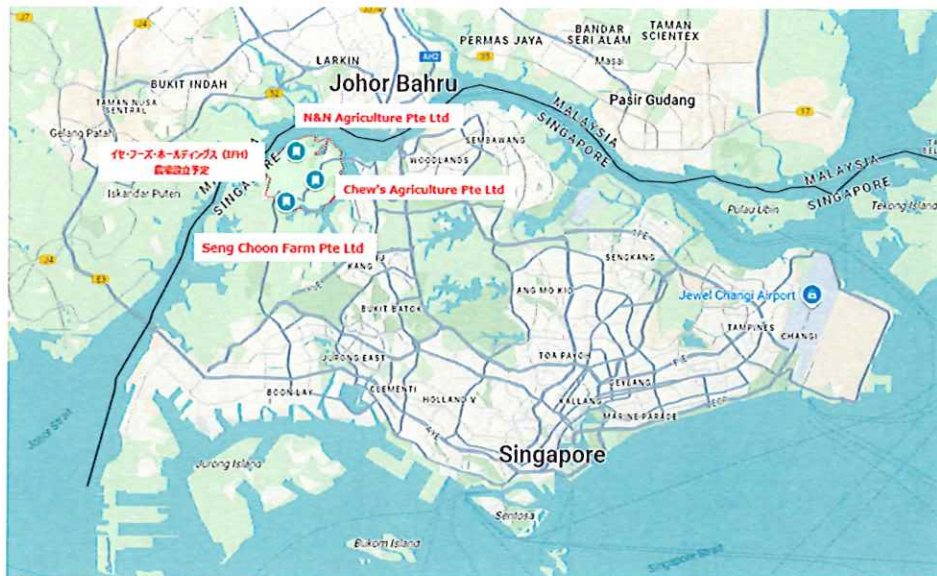


出典：シンガポール食品統計 2021、2023

現在、シンガポールには SFA の認可を受けた 3 箇所の農場（N&N Agriculture Pte.Ltd.、Chew's Agriculture Pte.Ltd.、Seng Choon Farm Pte.Ltd.）が存在し、新鮮な鶏卵が日々生産されている。これに加えて国内で 4 箇所目となる、イセ・フーズ・ホールディングス（IFH）による新施設設立も近々予定されている（当初の予定では 2024 年開業予定だったが、2025 年 1 月現在まだ準備中である）。

同施設は年間 3 億 6,000 万個の鶏卵生産能力を持つとされ、これにより国内自給率は 50%まで伸長予定と推定されている。また、イセ・フーズ・ホールディングス（IFH）農場の設立は、3 箇所の農場と同様にシンガポール北部のリムチュカン地区に位置する予定である。

図 2 - 1 シンガポール内の認定養鶏場位置



出典:Google マップをもとに作成

(2) 殻付き鶏卵の生産実態（事例）

シンガポールでは、様々な IT システムを駆使した効率的な養鶏・鶏卵の生産が行われている。今回はその一例として、シンガポールにある 3 つの認定農場の 1 つである Seng Choon Farm Pte Ltd.での取り組みについて下記にまとめる。同農場では 85 万羽が飼育され、毎日 60 万個の鶏卵が生産されており、国内需要の約 12%を満たしている。

(a) 飼料

同農場では、大豆、トウモロコシ、小麦など原材料ごとに多様なサイズの貯蔵タンクを有し、毎日 100 トンほどの特別調合飼料を調製する。トウモロコシなどの一部の材料は、農場の中で裁断処理され、飼料用に加工されている。飼料原料の配合は、飼料工場の中心に位置する制御室で厳密にデジタル管理され、様々な飼料が生産される。

シンガポールでは「ビタミン強化卵」や「オメガ 3 卵」など様々な種類の栄養機能鶏卵が流通しているが、これは飼料の違いによってつくられる。例えば高濃度の DHA やオメガ 3 といった栄養成分を含む油脂を飼料に配合することで、栄養価の高い脂質を含む卵黄に含めることができる。また与える飼料によっては、低コレステロールやビタミン D を多く含む卵黄に調整することも可能である。このような栄養機能鶏卵は機

械選別の上でパッキングされるが、採卵する鶏の種類によっては栄養素の含有量に個体差が生じる場合もある。

(b) ケージ

鶏舎は壁で完全に囲まれた4～6層の構造から成り、それぞれ3万～5万羽の鶏を収容可能である。シンガポールは熱帯雨林気候であり、外気温も35℃程度と高いが、鶏舎内の温度はシステムによって管理され、常に30℃未満に保たれる。シンガポールでは飼料への抗生物質の使用が禁止されているため、外部物質の混入には細心の注意が払われており、全てのスタッフは鶏舎入室前に消毒が義務付けられている。

また照明について、自然のサイクルにならって、朝は徐々に明るくなり、夕暮れ時には暗くなるよう厳密に管理されている。また、糞尿はベルトコンベアで収集され、中央処理エリアにて堆肥化のために処理される。

(c) グレーディング

ケージは緩やかな傾斜をつけて設計されており、産卵された卵は自動的にベルトコンベアに転がる仕組みになっている。その後選別センターに集められ、グレーディングが行われる。明らかに割れやヒビの認められる卵が人の手で除去された後、最先端の選別機によって毎時最大12万個の卵が処理される。

選別行程では卵はコンベアに流され、その間に合計16枚の写真が撮影される。これにより卵に汚れが発見されれば、レーン外へ移される。次いで、音響検出という手法を用い、卵を軽く叩くことで発生する音を測定して、人間の目では見逃されやすい極めて小さな亀裂がないかを調べる。この工程はかつて人による目視検査だったが、機械の導入で格段に精度とスピードが向上した。

その後、殻表面を紫外線消毒し、個別計量を行った後に、最後の行程として、光に透かして血液スポット検出器によって検査を行う。血液スポットは一定の確率で自然発生するため避けることはできないが、一般的に消費者から避けられる傾向にあるため、スポットが検出された卵はレーン外へと外される。

(d) 生産性の向上

全ての検査を完了した卵は梱包された後に木箱へと移され、ロボットアームによってパレットに積み上げられて配送工程へと進む。鶏卵価格は毎週変更されるため、コンピューターによって管理されており、配達担当者も携帯情報端末を装備して、逐一確認をしながら業務にあたっている。このような積極的なITシステムの活用と生産性向上によって、同施設は約100人の従業員で管理可能な状態が維持されている。

(3) シンガポールで流通する卵製品

シンガポールにおける殻付き卵の付加価値分類は、輸入鶏卵、動物福祉鶏卵、栄養機能鶏卵、生食可能（低温殺菌）鶏卵、冷蔵および常温の両方で包装（洗浄）された鶏卵、常温で包装された未洗浄鶏卵など 36 品目から構成される。各分類の鶏卵販売状況とおよその価格帯は以下の通り（表 2 - 3）。

表 2 - 3 シンガポールの殻付き鶏卵の付加価値分類と販売状況

分類	付加価値	主な販売店舗（業態）				1個あたり価格帯	備考
輸入鶏卵 /輸入種鶏	日本産	中高級スーパー	-	-	日系スーパー	0.70-2.00 (SGD)	
	ニュージーランド産/ デンマーク産	中高級スーパー	-	-	日系スーパー	1.00-1.50 (SGD)	
動物福祉	有機+ケージフリー	中高級スーパー	-	-	日系スーパー	1.30-1.50 (SGD)	
	ケージフリー	中高級スーパー	大衆スーパー	-	-	0.70 - 1.00 (SGD)	
生食可能	低温殺菌	中高級スーパー	大衆スーパー		日系スーパー	0.50 - 0.70 (SGD)	取扱有無は店舗による
栄養機能	ビタミンE/オメガ3&6	中高級スーパー	大衆スーパー	-	-	0.40-0.60 (SGD)	
パック 洗浄卵	赤玉（冷蔵）	中高級スーパー	大衆スーパー	-	-	0.30-0.50(SGD)	低温殺菌鶏卵が冷蔵にて販売されている
	白玉（冷蔵）	中高級スーパー	大衆スーパー	-	日系スーパー	0.50 - 0.70 (SGD)	
	赤玉（常温）	-	大衆スーパー	伝統小売	-	0.50-0.80(SGD)	
	白玉（常温）	-	大衆スーパー	伝統小売	-	0.40 - 0.50 (SGD)	
未洗浄卵	赤玉（常温）	-	-	伝統小売	-	0.20 (SGD)	
	白玉（常温）	-	-	伝統小売	-	0.30 (SGD)	

※価格については2024年8月時点の概算であり、時期、店舗、割引有無などにより異なる

シンガポール産鶏卵は、低温殺菌鶏卵（パスチャライズド鶏卵、殺菌処理されており生食可能）、オメガ3や6、ビタミンE等の栄養成分が強化された栄養機能鶏卵、平飼い鶏卵など多様なバラエティーを有しており、健康志向の消費者に人気である。欧米人も多いシンガポールという環境では倫理的に生産された鶏卵の需要も高まっていることから、比較的洗練された商品が多く出回っている。

また、ピータン（センチュリーエッグ）、塩漬け卵、ウズラ卵（水煮）などの加工卵製品は、スーパー等で広く出回っており、簡単に入手可能である。シンガポールでは共働き家庭が一般的であるため、このようなすぐに食べられるインスタント（調理済み）食品の需要は大きい。生鮮鶏卵と比べると比較的輸入が簡単であることも、このような加工食品に対しての追い風となっている。



（写真） Farm Table オメガ 3&6 鶏卵



(写真左) Chew's 平飼い鶏卵



(写真右) N&N Agriculture 低温殺菌鶏卵（日本語表記付き）



(写真左) Farm Table ピータン（センチュリーエッグ）



(写真中央) Farm Table 塩漬け卵



(写真右) Dasoon ウズラ卵（水煮）

日本産鶏卵は、明治屋や伊勢丹などの日系高級スーパー・百貨店や、ドン・ドン・ドンキ等の日系スーパーで取り扱われているほか、シンガポール国内に多数の店舗を持つ地場系スーパー Cold Storage でも広く取り扱われている。日本産鶏卵は、どの店舗も共通して冷蔵販売が基本で、マレーシア産やシンガポール産鶏卵と比較すると価格は高めである。詳細は第4章にて後述する。

(4) 各種認証ロゴマーク

シンガポール産鶏卵のパッケージには、製品ごとの認証によって、単数または複数のロゴマークが印字されていることが多い。下記に、一般的に多く見かける認証ロゴマークについての情報をまとめる。なお、各種申請は、シンガポール商業ライセンス認可ポータルである GoBusiness Licensing を通じて実施される。

(a) SG Fresh Produce ロゴ

「シンガポール産」であることを示しており、2022 年に導入された。主要なシンガポール事業者では、Chew's Agriculture Pte.Ltd. と N&N Agriculture Pte.Ltd. は 2 つ星、Seng Choon Farm Pte.Ltd. は 1 つ星を獲得している。

表 2 - 4 SG Fresh Produce (SGFP) ロゴ

名称	SGFP - シンガポール フレッシュプロデュース 1-star	SGFP - シンガポール フレッシュプロデュース 2-star	SGFP - シンガポール フレッシュプロデュース 3-star
ロゴ			
認定要件	SFAの認可を受けた地元のシンガポール国内農場であること	SFAの認可を受けたシンガポール国内農場であり、SG良農業慣行 (SG GAP) 認証を取得していること	SFAの認可を受けたシンガポール国内農場であり、SG良農業慣行 (SG GAP) 認証とSGクリーン＆グリーン (SG C&G) 認証を取得していること

出典：シンガポール食品庁（SFA）



(写真左) Seng Choon Farm Egg の SGFP ロゴ、1 つ星 (2024 年 9 月撮影)



(写真右) Chew's Agriculture Egg の SGFP ロゴ、2 つ星 (2024 年 9 月撮影)

(b) ハラルロゴ

シンガポールは他民族国家であり、様々な文化的背景を持つ人々がともに暮らしている。2020 年の国勢調査によると、イスラム教徒の人口はシンガポール人口の 15.6%を占めている。シンガポールは世界のハラルハブとしても位置付けられており、シンガポール統計局によると、2022 年における消費者支出総額の 9.0%はハラル製品とサービスが占めていた。なお、ハラルとは、アラビア語で「許されたもの」を意味する。

シンガポールのハラル認証制度は Majlis Ugama Islam Singapura (MUIS) の定期的な監査によって厳しく管理されているため、その品質の高さは世界的に広く認知されている。シンガポールにおける主要なハラル産業は、食品、イスラム金融、製薬、化粧品および日用品である。

申請には、使用する全ての原材料に対するハラル証明書や、各施設へ最低 2、3 名のイスラム教徒スタッフの配置、その他シンガポールハラル品質管理システムの規則を遵守することが求められる。

図 2 - 2 ハラル認証ロゴ



出典：Majlis Ugama Islam Singapore (MUIS)

現地スーパー等で広く出回る Chew's Agriculture、N&N Agriculture、Seng Choon Farm などのシンガポール産鶏卵はハラル認証を取得しているが、その他のオーストラリア産や日本産といった輸入製品の認証は確認できなかった。JETRO からの報告によると、MUIS はシンガポールのハラル認証を規制する政府機関であるため、シンガポールに拠点を構える企業に限って認証をしているという。一方で、MUIS はシンガポール国外生産製品の認証のための Warees Halal Limited という企業も運営統括しており、同社を経由すれば日本産製品が JE ハラル認証を取得することは不可能ではない。



(写真左) ハラル認証ロゴ付き Chew's Agriculture Egg (2024 年 9 月撮影)

(写真右) ハラル認証ロゴ付き N&N Agriculture Egg (2024 年 9 月撮影)

(c) HACCP 認証ロゴ

HACCP 基準を満たす事業者は、HACCP 認証ロゴの掲示が可能である。現地スーパー等で、シンガポール産鶏卵には HACCP ロゴ付きパッケージが広く見られたが、ニュージーランドや日本産鶏卵など輸入鶏卵では確認ができなかった。



(写真) HACCP ロゴ付き Chew's Agriculture Egg (2024 年 9 月撮影)

2. 主な養鶏・鶏卵関連企業

(1) N&N Agriculture Pte.Ltd.

N&N Agriculture Pte.Ltd.は Eggriculture Foods Ltd. (1996 年設立) の子会社で、シンガポールにて卵製品の製造と販売を行う。同社は新鮮鶏卵と加工卵製品を取り扱い、「安安 N&N」のブランド名で知られ、リムチューカン地区に 11.6 ヘクタールの農場を所有している。彼らは“Egg Story – Pasteurized to kill Salmonella and Bird Flu Virus (エッグストーリーサルモネラ菌と鳥インフルエンザウイルスを低温殺菌済み)”と銘打ち、「P」の文字が印刷・刻印された殻付き卵を販売している。温度と時間を管理しながら鶏卵を温水処理する低温殺菌プロセスによって、有害なサルモネラ菌と鳥インフルエンザウイルスを防ぎながら卵の豊かな風味と栄養価を保持することを実現しており、SFA から殻付き卵の加工および低温殺菌のための食品施設運営において「優良」に相当する「A」グレードを授与されている。また、同社は養鶏場、飼料生産、殻付き卵の生産・包装に関する ISO22000:2018 認証を取得しており、低温殺菌殻付き卵、低温殺菌液体卵、低温殺菌半熟卵、低温殺菌固ゆで卵、殻なし卵の加工に関する FSSC22000 認証(食品安全システム認証)も取得している。

同社は現在、1 日当たり平均 45 万個の新鮮鶏卵を生産しているが、その生産能力の拡大 (1 日当たり 70 万個) とウズラ農場の設立に 600 万ドルの投資予定であると発表している。

表 2 – 5 N&N Agriculture Pte.Ltd. 概要

鶏卵農場	N&N Agriculture Pte.Ltd.
本社・工場所在地	本社: シンガポール 所在地: リムチューカン地区
ウェブサイト	https://www.sfa.gov.sg/fromSGtoSG/farms/farm/Detail/n-n-agriculture
事業内容	鶏卵生産
生産規模	農場: 11.6ヘクタール、1 日生産量: 約45万個
認証	ISO 22000、シンガポールハラル認証、GAP認証、SFA 食品工場グレーディングシステム
鶏卵商品の取扱	殻付き卵、低温殺菌鶏卵、液卵、低温殺菌半熟卵など

出典: SFA ウェブサイトをもとに作成

(2) Chew's Agriculture Pte Ltd.

Chew's Agriculture Pte Ltd. (1987 年設立) は、栄養機能鶏卵に強みを持ち、様々な種類の製品を幅広く展開している。特にカンボンエッグ（放し飼いの環境下で飼育された鶏の卵）や、キングサイズ（超大玉）鶏卵が人気である。リムチューカン地区に 20 ヘクタールの農場を所有している。コンピューターによって温度制御された全自動飼育システムを持つ鶏舎では、抗生物質やホルモンを含まない自社製造された完全植物ベースの飼料によって、多くの鶏が飼育されている。

同社は DBS から 10 年間で 2,700 万 SGD（約 31.2 億円）の投資を受け、最先端の技術を駆使した大規模な平飼い施設を有する新たな農場を建設した。HFAC（Humane Farm Animal Care）認証を取得しており、飼育される鶏は広いスペースや高い止まり木に自由に卵を生むことができるようになり、彼らの居住条件は格段に改善した。このような取組みは、飼育される鶏の健康を確保するだけでなく、彼らが生産する卵の品質も向上させることができるため、双方にメリットがある投資だと言える。

同社では現在、1 日当たり約 50 万個の卵を生産しており、そのうち 95% はシンガポール国内で流通している。同社のディレクターによると、健康意識と環境意識の高い消費者の増加に伴って、「適切な環境で生産された栄養価の高い卵」の需要が高まっているという。

表 2 - 6 Chew's Agriculture Pte.Ltd. 概要

鶏卵農場	Chew's Agriculture Pte.Ltd.
本社・工場所在地	本社: シンガポール 所在地: リムチューカン地区
ウェブサイト	https://www.chewsegg.com/
事業内容	鶏卵生産
生産規模	農場: 20ヘクタール、1 日生産量: 約80万個
認証	ISO 22000、シンガポールハラル認証、SFA 食品工場グレーディングシステム、GAP認証、Humane Farm Animal Care (HFAC)が運営する国際認証“Certified Humane”
鶏卵商品の取扱	殻付き卵、カンボン鶏卵、ケージフリー鶏卵など

出典: Chew's Agriculture ウェブサイトより作成

(3) Seng Choon Farm Pte.Ltd.

Seng Choon Farm Pte Ltd. (1987 年設立) は、現在は 2 代目にあたる (Koh Yeow Koon 氏) が指揮を執り、新鮮鶏卵からインスタント（調理済）鶏卵や低温殺菌液卵まで多様な製品を生産している。14 ヘクタールの農場には 85 万羽の鶏がおり、1 日当たり約 62.5 万個の生産能力を持つ。

表 2－7 Seng Choon Farm Pte.Ltd. 概要

鶏卵農場	Seng Choon Farm Pte.Ltd.
本社・工場所在地	本社: シンガポール 所在地: リムチューカン地区
ウェブサイト	https://www.sengchoonfarm.com/
事業内容	鶏卵生産
生産規模	農場: 11.6ヘクタール、1 日生産量: 62.5万個
認証	ISO 22000、SGFP認証
鶏卵商品の取扱	殻付き卵、特定ビタミン強化鶏卵、調理済み鶏卵、低温殺菌液卵など

出典: Seng Choon Farm ウェブサイトより作成

3. 鶏卵輸入に関する規則

(1) 輸入規制

シンガポールにおける鶏卵および同加工品の輸入は、SFA が所管する動物・鳥類法および食品販売法 (Sale of Food Act) により規制されている。シンガポールにおいて、卵製品 (殻付き卵、加工卵) は SFA の認定を受けた海外の施設からのみ輸入が可能である。認定には 2 段階あり、1 段階目は輸出国/地域の認定、2 段階目は施設認定となっている。施設認定を受けるためには、まず国/地域が認定されている必要がある。シンガポール向けに輸出が認定されている原産国および食品事業所のリストは SFA のウェブサイトで参照することができる。

日本からの食用卵の輸入は SFA により認定されており、食用卵をシンガポールへ輸出することができる国内の SFA 認定事業者 (生産農場) は、2024 年 6 月時点で茨城県、千葉県、愛知県などに所在する 13 農場となっている。また、鶏卵加工品を含む、家禽肉や家禽肉製品および家禽卵製品についても、日本からの輸入が 2019 年から解禁となり、2024 年 6 月時点で家禽卵製品の生産認定事業者は 3 社存在する。

鶏卵は動物検疫の対象となっている。鶏卵を含む生きた動物・鳥類全般の防疫による輸入規制は、動物・鳥類法およびその付属規定である動物・鳥類 (輸入) 指令に定められている。動物検疫の指定検疫物である食用卵の輸入にあたっては、輸出国の検疫機関により、船積み前 7 日以内に発行された輸出検疫証明書の提示が義務付けられている。また、SFA は食用卵の輸入に際して、次の衛生条件を定めており、低温殺菌処理済みの卵については、さらに厳しい条件が設定されている。

【食用卵】

シンガポールへの食用卵の輸出が SFA より認可されている国は、日本を含めた 19 カ国であり、日本からは食用卵生産農場として、2024 年 6 月時点で 13 事業者が輸出認可されている。SFA より認可を受けるためには、申請の際に、農場および孵卵場の名称、住所、位置、規模、家禽の数、品種、毎月の推定生産量、衛生状態、管理方法、輸出国獣医当局によるワクチン計画などの情報を、全て英

語で用意する必要がある。なお、SFA による認定または再認定を希望する農場は、SFA 認定種鶏場から、新たに初生雛を導入することを求められる場合があるほか、平飼い卵としての認定を受けるためには別途追加要件を満たす必要がある。

【鶏卵製品】

2019 年 5 月から、鶏を含む家禽肉や家禽肉製品および家禽卵製品の日本からシンガポールへの輸出が解禁となり、家禽卵製品製造施設として、2024 年 6 月時点で 3 社が認定されている。

家禽肉や家禽肉製品および家禽卵製品の輸出を希望する場合には、当該食鳥処理場、食肉処理場および製品製造施設の設置者または営業者が、当該施設を管轄する都道府県、保健所設置市または特別区の衛生部局および畜産部局の協力を得て、SFA のウェブサイトにて定める申請書類（日本語および英語一部ずつ）を作成し、厚生労働省宛に提出する（その場合、施設を管轄する都道府県知事、保健所を設置する市の市長または特別区長を経由）。合わせて、日本語の写しを当該施設が所在する地域を管轄する地方厚生局宛に提出する。申請書類を受理した厚生労働省が SFA へ書類を送付、書類審査および必要に応じて施設の現地調査を実施し、認定を受けるとその情報が SFA のウェブサイトに掲載される。厚生労働省は都道府県などを通じて、その旨を輸出希望者に通知する。さらに家禽卵製品の輸出にあたっては、食品衛生検査所または保健所が発行する食肉衛生証明書（Heath Certificate）と、動物検疫所が発行する輸出検疫証明書（Export Quarantine Certificate）を付して輸出しなければならない。輸出検疫証明書の発行にあたっては、動物検疫所に対し、衛生証明書の複写を添えて輸出検査を申請する必要がある。

（2）食品関連規制

【残留物質】

シンガポールでは国内で販売される食品全般の残留農薬をはじめ、残留抗生物質、残留エストロゲン、マイコトキシン）、3-MCPD、メラミン、細菌混入などの偶発混入成分に関する基準を食品規制（Food Regulations）によって規制されている。食品規制第 9 付表では、食品に残留する農薬の種類が列挙され、農薬ごとに対象となる食品と使用が認められている農薬の最大残留基準（MRL 値）が明記されている。残留農薬はポジティブリスト形式で規定されており、この残留農薬基準を満たさない食品の輸入、販売、広告などは禁じられている。同規定で明示されていない農薬については、原則としてコーデックス委員会（国際食品規格委員会）の勧告に準じ、同委員会が設定した基準値を超えてはならないと規定されている。また、2 種類以上の農薬が残留している食品については、それぞれの農薬について、実際の残留量を当該農薬の最大残留基準値で割った数値の合計が 1 を超えてはならないとされる。

残留抗生物質については、食品規制第 32 項（Antibiotic residues）に記載されており、検知可能な抗生物質やその変質した物質が含まれた乳製品、肉・肉製品やいかなる食品も、輸入および販売、

広告、製造などを行うことが禁止されている。エストロゲンもほぼ同様の扱いとなる（食品規制第 33 項）。ただし、卵液やチーズの保存料として使用されるナイシンについては、含まれていても問題がない。また、食品に含まれる重金属の残留基準も同じく食品規制について定められている。

【食品添加物】

シンガポールでは食品に使用することが認められる食品添加物は、固化防止剤や酸化防止剤等、14 の機能に分類されており、食品規制で規定されている基準に従って使用されている場合、食品への使用が認められている。SFA では、その使用が認められている物質を表示するポジティブリスト形式で規定しているが、風味増強剤など一部については、使用が認められていない物質をネガティブリストとして掲げている。食品規制に純度が明示されていない食品添加物の場合、許可された食品添加物の純度は、国際連合食糧農業機関及び世界保健機関（FAO/WHO）による、合同食品添加物専門家委員会が推奨する仕様に適合することが必要である。認可食品添加物および最大使用基準値は食品規制第 3 付表～第 8 付表および第 13 付表に掲載されている。

【食品包装】

食品に触れる容器包装は食品規制に一般規格基準が定められており、その規格基準に適合していなければならない。個別食品に対する包装容器の規定は特に定められていない。

【ラベル表示】

シンガポールでの販売時の表示義務は、食品規制に規定されている。食品規制では、食品全般の一般表示義務項目として、包装済み食品のラベルに以下の項目を英語で表示することが求められる。1.～4.については印字の高さが 1.5mm 以下であってはならない。

卵には、生産農場を特定するため、SFA によって発行された個別識別コードを食用染料（食品染料の SFA による事前承認は不要）で表示しなければならない。

1. 商品名または一般分類名
2. 成分（2 種類以上の成分からなる食品の場合、重量の大きい順に表示）
3. 合成着色料名（合成着色料タートラジンなどを含有する食品の場合のみ）
4. 内容量（正味容量または重量）
5. 原産国および輸入者（代理人）名と住所
6. アレルゲン表示（鶏卵の場合は商品名の「Egg」が代替表示となるため、あらためて含む旨の表示は不要、鶏卵加工品にはアレルゲン表示の義務あり）
7. 人工甘味料アスパルテームを含有する食品の場合の記載

栄養表示／カロリー表示は食品規制第 8A～9B 項および第 11 項に規定されている。シンガポールでは、エネルギー価（kcal または kJ）、タンパク質（g）、炭水化物（g）、脂質（g）、その他の栄養素の含有量（g、ナトリウム、カリウム、コレステロールなどの分量は mcg または mg）を、食品規制第 12 付表で規定された「栄養情報パネル」（nutrition information panel、栄養情報パネルはビタミン、ミネラルの表示には使用できない）、で表示していない限り、「エネルギー源」「タンパク質源」「低カロリー」「シュガーフリー」などと、当該食品に関する栄養面での強調表示を行うことができない。一方、ビタミン A、B1、B2、B6、B12、C、D、葉酸、ナイアシン、カルシウム、ヨウ素、鉄分、リンなどビタミンおよびミネラルの栄養表示を行う場合には、それぞれの食品に含まれるべきビタミン、ミネラルの含有成分量が 1 日当たり摂取目安量の 6 分の 1 以上含まれていなければならない、ビタミンおよびミネラルの強調表示を行う場合には、含有成分量が 1 日当たり摂取目安量の 50%以上を満たす必要がある。

第 3 章 貿易動向

1. 鶏卵の輸出入動向

食料品のほとんどを輸入に頼るシンガポールであるが、鶏卵は他品目と比較して自国での生産量が多い品目である。シンガポール企業庁の貿易統計データをもとに、殻付きの鶏卵（HS コード:04072100）および殻付きではない鶏卵の輸出入動向を分析する。

(1) 殻付き鶏卵の国別輸入推移

シンガポールは、世界情勢や地政学的リスクに備えて食料品の輸入源を多様化することに努めており、安定した食料供給を実現している。直近では、トルコ産とインドネシア産の鶏卵を輸入可能として承認し、2023 年現在は 19 カ国からの輸入を受け入れている。

シンガポールにおける殻付き鶏卵（HS コード 04072100）の 2023 年の輸入額は 2 億 8173 万 SGD、輸入数量は 14 億 7616 万個だった。その内訳は、65%以上がマレーシア（1 億 8,960 万 SGD、9 億 6,175 万個）、約 22%がタイ（5,704 万 SGD、3 億 3,003 万個）、約 8%がウクライナ（2,006 万 SGD、1 億 1,865 万個）、約 2%（563 万 SGD、304 万個）がポーランドとなっている。

日本産鶏卵の輸入額は約 0.6%にあたる 160 万 SGD、数量は 377 万個である。2021 年からの推移を見ると、日本産鶏卵の輸入量は 2021 年の 535 万個から 2023 年の 377 万個へと徐々に減少していることがわかる。要因の一つとして、近年はシンガポール政府の「30 by 30」戦略に基づき、自給率向上の一環としてシンガポール産鶏卵の生産が増加していることが考えられる。前述の通り、シンガポール産鶏卵は多様な商品バリエーションを有しており、生食可能な低温殺菌鶏卵も市場に多く出回っている。このような背景から、価格競争力の乏しい日本産鶏卵への需要の一部がシンガポール産鶏卵に代替されている可能性はあるだろう。また、輸入可能国が増えたことで、日本以外の他国からの輸入量が相対的に増えてきていることも要因として考えられる。鶏卵輸入シェアトップのマレーシアからの輸入量は過去 2 年間は比較的安定しているが、タイからの輸入量は 2 倍以上に増加している。さらに地理的にも近いブルネイやインドネシアからの輸入開始によって、鶏卵供給の輸入先がさらに多様化していることの影響は大きいだろう。また、現地スーパー等でよく見かけるデンマーク産鶏卵は、構成比では 0.1%程度ではあるものの、着実に数量が増加していることが分かる。また、韓国産やアイルランド産の鶏卵も増えてきている（表 3 - 1、3 - 2）。

表3-1 シンガポールの殻付き鶏卵（HSコード04072100）国別輸入額の推移（単位:千 SGD）

国名	2021	2022	2023		
	金額	金額	金額	構成比	前年比
マレーシア	138,951	191,794	189,604	67.3%	98.9%
タイ	10,556	22,893	57,044	20.2%	249.2%
ウクライナ	5,545	16,074	20,057	7.1%	124.8%
ポーランド	20,720	24,946	5,626	2.0%	22.6%
オーストラリア	4,954	4,700	1,907	0.7%	40.6%
インドネシア	-	-	1,867	0.7%	-
ニュージーランド	2,634	2,354	1,713	0.6%	72.8%
日本	3,673	2,666	1,614	0.6%	60.5%
ブルネイ	-	3	916	0.3%	30533.3%
トルコ	102	905	666	0.2%	73.6%
韓国	-	174	314	0.1%	180.5%
デンマーク	176	127	247	0.1%	194.5%
アイルランド	51	91	98	0.0%	107.7%
ルーマニア	-	-	61	0.0%	-
合計	187,362	266,727	281,734	100.0%	105.6%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024年12月現在）

表3-2 シンガポールの殻付き鶏卵（HSコード04072100）国別輸入数量の推移（単位:百個）

国名	2021	2022	2023		
	数量	数量	数量	構成比	前年比
マレーシア	11,048,843	10,703,131	9,617,546	65.2%	89.9%
タイ	956,342	1,375,916	3,300,256	22.4%	239.9%
ウクライナ	507,596	1,009,068	1,186,567	8.0%	117.6%
ポーランド	3,428,352	1,568,009	304,067	2.1%	19.4%
オーストラリア	353,049	235,845	53,136	0.4%	22.5%
インドネシア	-	-	103,540	0.7%	-
ニュージーランド	54,581	49,301	41,970	0.3%	85.1%
日本	53,473	49,702	37,748	0.3%	75.9%
ブルネイ	-	180	50,886	0.3%	28270.0%
トルコ	8,986	69,296	36,774	0.2%	53.1%
韓国	-	10,368	16,961	0.1%	163.6%
デンマーク	4,746	3,760	4,990	0.0%	132.7%
アイルランド	563	1,048	3,764	0.0%	359.2%
ルーマニア	-	-	3,352	0.0%	-
合計	16,416,531	15,075,624	14,761,557	100.0%	97.9%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024年12月現在）

輸入金額を数量で割った輸入単価について、日本産鶏卵は2021年の0.69 SGD/個から2023年は0.43 SGD/個と下落傾向であった。他国産も含めて年ごとに推移を分析すると、2021年には0.1 SGD/個程度のグループ（マレーシア、タイ、ウクライナ、ポーランド、オーストラリア、トルコ）と0.4 SGD/個程度のグループ（ニュージーランド、デンマーク）、それ以上のグループ（日本、アイルランド）とおおまかに3つに分かれていた状況から、2023年には全体的に価格差が平準化され、0.2以下のグループとそれ以上のグループの2分類に分かれるように見受けられる。エネルギー価格や飼料価格の高騰など、世界的に鶏卵の生産

にかかるコストは上昇しており、これまで安価に販売されていたグループの価格は緩やかに上昇している。一方、高価格で販売されていたグループは、輸入可能国が増え、原産国や製品の選択肢が増えたことによる市場環境の激化によって価格競争が生まれ、販売価格が下落しているのではないかと考えられる。なお、日本産鶏卵においては販売価格下落の要因として円安の影響も大きいことに留意されたい。

表 3 - 3 HS コード 04072100 殻付きの卵（鶏・孵化用以外）単価（SGD/個）

国名	2021	2022	2023	
	単価	単価	単価	前年比
マレーシア	0.13	0.18	0.20	110.0%
タイ	0.11	0.17	0.17	103.9%
ウクライナ	0.11	0.16	0.17	106.1%
ポーランド	0.06	0.16	0.19	116.3%
オーストラリア	0.14	0.20	0.36	180.1%
インドネシア	-	-	0.18	-
ニュージーランド	0.48	0.48	0.41	85.5%
日本	0.69	0.54	0.43	79.7%
ブルネイ	-	0.17	0.18	108.0%
トルコ	0.11	0.13	0.18	138.7%
韓国	-	0.17	0.19	110.3%
デンマーク	0.37	0.34	0.49	146.5%
アイルランド	0.91	0.87	0.26	30.0%
ルーマニア	-	-	0.18	-
合計	0.11	0.18	0.19	107.9%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

(2) 殻付き鶏卵の国別輸出推移

シンガポール産の殻付き鶏卵（HS コード 04072100）のうち、輸出分の大半は香港に出荷され、2023 年からは台湾への輸出も開始された。総輸出額は約 200 万～300 万 SGD で、卵は 10 万個～25 万個である（表 3 - 4、3 - 5）。

表 3 - 4 シンガポールの殻付き鶏卵（HS コード 04072100）国別輸出額の推移（単位:千 SGD）

国名	2021	2022	2023
香港	2,832	2,056	2,815
台湾	-	-	321
ミャンマー	20	10	7
モルディブ	-	-	-
合計	2,852	2,066	3,143

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

表 3 - 5 シンガポールにおける殻付き鶏卵（HS コード 04072100）国別輸出量の推移（単位:百個）

国名	2021	2022	2023
香港	251,091	105,703	127,291
台湾	-	-	11,506
ミャンマー	7	3	1
モルディブ	-	-	1
合計	251,098	105,706	138,799

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

2. 鶏卵関連製品の輸出入動向

(1) 鶏卵関連品の品目別・国別輸入推移

2023 年のシンガポールの殻付きではない鶏卵の乾燥卵や液卵などの鶏卵関係品の輸入実績は、金額ベースで 511 万 SGD、数量ベースで 1,386 トンに達する。品目別では、「殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－その他のもの（HS コード 04089900）」が最も多く 1,192 トンと 8 割以上を占め、次いで「殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－その他のもの（HS コード 04081900）」が 148.242 トンとなっている。

表 3 - 6 シンガポールの鶏卵関連品の品目別輸入金額推移（単位：千 SG ドル）

HSコード	品目名	2021	2022	2023	構成比
04081100	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－乾燥したもの	164	202	315	6.2%
04081900	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－その他のもの	676	806	1,142	22.3%
04089100	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－乾燥したもの	117	98	197	3.9%
04089900	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－その他のもの	1,578	3,425	3,457	67.6%
鶏卵関係品合計		2,535	4,531	5,111	100.0%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

表 3 - 7 シンガポールの鶏卵関連品の品目別輸入数量推移（単位：KG）

HSコード	品目名	2021	2022	2023	構成比
04081100	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－乾燥したもの	18,660	18,720	29,960	2.2%
04081900	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－その他のもの	145,535	163,875	148,242	10.7%
04089100	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－乾燥したもの	9,950	9,220	15,540	1.1%
04089900	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－その他のもの	637,364	1,280,998	1,192,061	86.0%
鶏卵関係品合計		811,509	1,472,813	1,385,803	100.0%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

国別実績では、乾燥卵黄では中国からの輸入が6割以上を占め、ほかデンマークからも輸入を行っている（表3－8）。

表3－8 シンガポールの乾燥卵黄（HS 04081100）国別輸入数量推移（単位：KG）

国名	2021	2022	2023	構成比
デンマーク	18,660	8,720	9,900	33.0%
中国	-	10,000	20,060	67.0%
合計	18,660	18,720	29,960	100.0%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024年12月現在）

表3－9 シンガポールの卵黄（乾燥以外）（HS 04081900）国別輸入数量推移（単位：KG）

国名	2021	2022	2023	構成比
アメリカ	23,505	6,111	49,128	33.1%
マレーシア	79,400	77,000	66,104	44.6%
フランス	28,730	57,610	10,056	6.8%
インド	13,900	23,000	21,000	14.2%
オランダ	-	-	509	0.3%
イギリス	-	-	506	0.3%
イタリア	-	-	400	0.3%
オーストラリア	-	10	28	0.0%
ドイツ	-	144	254	0.2%
中国	-	-	200	0.1%
ラトビア共和国	-	-	54	0.0%
タイ	-	-	2	0.0%
合計	145,535	163,875	148,241	100.0%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024年12月現在）

表3－10 シンガポールの殻なし乾燥鳥卵（HS 04089100）国別輸入数量推移（単位：KG）

国名	2021	2022	2023	構成比
デンマーク	4,500	6,800	7,600	48.9%
中国	5,400	1,300	5,200	33.5%
インド	-	1,120	2,640	17.0%
ドイツ	-	-	50	0.3%
フランス	50	-	50	0.3%
合計	9,950	9,220	15,540	100.0%

出典：シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024年12月現在）

表 3-11 シンガポールにおける殻なし鳥卵（乾燥以外）（HS 04089900）（単位：KG）

国名	2021	2022	2023	構成比
マレーシア	539,000	1,059,000	965,500	81.0%
インド	76,000	171,500	148,840	12.5%
アメリカ	21,000	22,791	57,126	4.8%
イタリア	-	-	6,617	0.6%
ドイツ	-	450	4,610	0.4%
フランス	1,344	26,532	2,550	0.2%
オランダ	-	-	2,514	0.2%
イギリス	-	170	2,290	0.2%
ニュージーランド	-	470	1,170	0.1%
リトアニア共和国	-	-	9	0.0%
中国	-	5	818	0.1%
タイ	20	79	16	0.0%
合計	637,364	1,280,997	1,192,060	100.0%

出典： シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

(2) 鶏卵関連品の品目別輸出推移

シンガポールからの輸出は、殻なしの鳥卵（乾燥以外）（HS コード 04089900）が金額・数量ともに 8 割前後を占め、少量ではあるが乾燥卵黄やその他殻付きでない品目の輸出も一部見られる。輸入量と比較して輸出量は少なく、主に台湾や香港向けに輸出している。

表 3-12 シンガポールの鶏卵関連品の品目別輸出金額推移（単位：千 SG ドル）

HSコード	品目名	2021	2022	2023	構成比
04081100	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－乾燥したもの	23	-	46	17.0%
04081900	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－その他のもの	9	7	6	2.2%
04089100	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－乾燥したもの	-	11	18	6.6%
04089900	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－その他のもの	3	4	201	74.2%
鶏卵関係品合計		35	22	271	100.0%

出典： シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

表 3-13 シンガポールの鶏卵関連品の品目別輸出数量推移（単位：KG）

HSコード	品目名	2021	2022	2023	構成比
04081100	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－乾燥したもの	2,422	1	5,280	12.8%
04081900	殻付きでない鳥卵および卵黄－卵黄－その他のもの	942	600	504	1.2%
04089100	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－乾燥したもの	0	720	1,610	3.9%
04089900	殻付きでない鳥卵および卵黄－その他のもの－その他のもの	804	804	33,807	82.1%
鶏卵関係品合計		3,364	1,320	41,201	100.0%

出典： シンガポール企業局（Enterprise Singapore）“Statlink”（2024 年 12 月現在）

第4章 鶏卵の販売動向

世界的なトレンドと同様、シンガポールにおいても EC の需要は高まっているものの、食料品に関しては依然として実店舗での購入が一般的である。2023 年現在、シンガポールには 691 件のスーパーマーケットが存在するが、NTUC、Dairy Farm ホールディングス（DFI リテールグループ）、Sheng Siong の 3 つの大手企業が市場の約半分を占めている。

シンガポールの大手スーパーマーケットや量販店では、鶏卵は冷蔵と常温の 2 種類の棚に分かれて販売されていることが多い（一部のチェーン店では冷蔵販売のみの場合もあった）。多くの中級～高級スーパーでは、シンガポール産の平飼い鶏卵が多く出回っており、シンガポール産鶏卵のほとんどは常温棚に陳列されていることが多かった（ただし、シンガポール産鶏卵であっても低温殺菌鶏卵は冷蔵陳列されていた）。また、まだ数は少ないものの一部のスーパーでは日本産鶏卵を取り扱う店舗もあり、日本産鶏卵は必ず冷蔵棚に並べられていた。さらに、デンマーク産とニュージーランド産鶏卵も冷蔵販売の形態が取られていた。

鶏卵売場には、同じ産地やブランドのものでも、例えば殻の色（赤または白）、サイズ、オメガ 3・オメガ 6 脂肪酸やビタミン E などの栄養機能鶏卵、パステライズド（低温殺菌）鶏卵など多彩な商品が数多く販売されている。低温殺菌鶏卵はシンガポールの大手鶏卵メーカー N&N が 2013 年に初めて販売してから、他メーカー品も含めてシンガポールの小売店での取り扱いが増えてきている。また関係者へのヒアリングによると、サイズの大きい卵の方が一回の調理に使用する個数が少なくて済むことから扱いやすいという理由で、消費者からの人気が高いという。シンガポールでは多くの卵を使用する中華料理が日常的に食べられていることもあり、ラージエッグとエクストララージ（キングサイズ）が特に人気で、売り場でも多く陳列されているのを頻繁に見かけた。

過去 3 年間で、シンガポールでは鶏卵を販売・使用する食品施設（スーパーマーケット含む）の数が徐々に増加している。新型コロナウイルス感染症対策の政府の厳格な「サーキットブレーカー」による全国的なロックダウンによって 2022 年は飲食店数が微減したものの、それでも飲食産業は他産業と比べ、比較的安定していると言える（表 4-1、4-2）。

表 4-1 シンガポールの主要小売店一覧

資本	会社名	店舗名	価格帯	店舗数	鶏卵売場の 冷蔵	鶏卵売場の 常温	ウェブサイト
現地系/区域系	DFI Retail Group	Cold Storage	中価格～高価格	25	○	○	https://coldstorage.com.sg/
		Cold Storage Fresh	中価格～高価格	20	○	○	
		Market Place	高価格	4	○	○	
		Jasons / Jasons Deli	高価格	4	○	○	
		Grant (Supermarket/Hypermarket)	低価格	30		○	https://grant.sg/
		Grant Express	低価格	25		○	
現地系	NTUC Enterprise	FairPrice / FairPrice Xtra	中価格	122	○	○	https://www.fairprice.com.sg/
		FairPrice Finest	中価格～高価格	39	○	○	
	Prime Group International	Prime Supermarket	低価格	26		○	https://www.primesupermarket.com/outlets/
	Sheng Siong Supermarket	Sheng Siong	低価格	70		○	https://shengsiong.com.sg/
	HAO Corp	HAO Mart / HAO megamart	中価格	40		○	https://haomart.com.sg/
		Excellent by HAO mart	中価格～高価格	8		○	
日系	PPIH	Don Don Donki	ディスカウントストア	11	○		https://www.dondondonki.com.sg/
	Meldi-Ya Singapore	Meldi-Ya (明治屋)	高価格	2	○	○	https://www.meldi-ya.com.sg/
	Isetan (Singapore)	Isetan (伊勢丹)	高価格	1	○	○	https://www.isetan.com.sg/
	J-Mart	J-Mart	中価格	2	○		https://shop.j-mart.com.sg/pages/shops
イギリス系	Marks and Spencer Group	Marks & Spencer	高価格	11	○	○	https://www.marksandspencer.com/sg/
伝統小売	Traditional Markets	Wet Market	低価格	-		○	

※一部店舗では常温商品のみ取り扱い

表4-2 認可済み食品施設の数

分類	ライセンス数（件）				
	2019	2020	2021	2022	2023
小売以外の食品関連業・施設 (食品製造・加工・調理・包装施設)	1,852	1,897	2,079	2,256	2,425
飲食店・食料品店 (レストラン・カフェ、食品販売店等)	19,675	20,176	21,073	21,953	22,747
飲食屋台・食料品屋台 (飲食店・食料品店内の区画化された小ユニット)	14,569	14,773	14,455	14,328	14,178
スーパーマーケット	555	577	632	672	691
ホーカーセンター内にある屋台	13,400	13,483	13,570	13,390	13,430

出典：シンガポール食品庁「Licensed Food Establishments」

シンガポールに首都は存在しないが、シンガポール南部に位置するセントラルビジネス地区（Central Business District, CBD）はシンガポールの商業・金融の中心地である。この地区にはラッフルズプレイス、マリナベイ、タンジョンパガーなどが含まれ、金融機関や多国籍企業、観光地が集まり、日本人を含む多くの外国人が居住しているほか、多くの日系スーパーも展開されている。一方、シンガポール北部はマレーシアとの国境に近く、多くの現地住民が暮らす地域である。北部にはシンガポール国民の8割が居住しているとされる集合団地、Housing and Development Board (HDB) が多数存在し、CBDと比較すると比較的物価は安く、小売店などで販売される商品展開も異なっている。また、多くのHDBの下にはスーパーや、安価でローカル料理が楽しめる飲食店が集まる屋台街・複合施設であるホーカーセンターが入居している。共働き家庭が多いシンガポールでは、朝食から夕食まで一日を通してホーカーセンターで食事する人も多い。

今回はこのようなシンガポールならではの文化や習慣を考慮し、CBD地区と北部地区の小売店やレストランを中心に視察を実施した（図4-1）。

図4-1 視察店舗



出典：Google マップをもとに作成

1. 一般スーパー・量販店における流通

(1) Cold Storage (DFI リテールグループ)

Cold Storage は、現在 DFI Retail Group (デイリーファームインターナショナル) 傘下の多国籍スーパーマーケットである。親会社は他にも、Cold Storage Fresh、Market Place、Giant 量販店も運営していることに加え、アジア各地にて Mannings や Wellcome などの小売店を展開している。

Cold Storage Fresh は、プレミアム商品と輸入品を中心に扱う高級スーパーである。現在、パラゴンやグレートワールドシティなどの市内中心部やショッピングモール、また UE スクエアモールやアルテスなどの外国人が多く暮らす高級コンドミニアムの近くなどに 20 店舗を展開している。

Cold Storage は、その品質と食品安全への取り組みが認められ、SGS (スイスに本拠地を置く世界最大の検査・検証・試験・認証企業) から HACCP 認証を取得している。鶏卵は常温と冷蔵の 2 つの温度帯で販売されており、シンガポール産鶏卵は常温、日本産やニュージーランド産は冷蔵で販売されている。また、シンガポール産も低温殺菌卵に限っては、冷蔵販売されていた (冷蔵庫温度は 7℃とやや高めの数値であった)。

パラゴン店の価格について、最も安価なものは 1 パック 6 個入り 3.90 SGD (約 450 円) のシンガポール産鶏卵で、1 個当たり 0.65 SGD (約 75 円)。最も高価なものはニュージーランド産の平飼いの卵で、1 パック 10 個入り 15.50 SGD (約 1,790 円)、1 個当たり 1.55 SGD (約 179 円) であった。

さらに、Cold Storage Fresh グレートワールド店では、プレミアム製品専用売り場も確認ができた。ここに陳列された「NuYolk Premium Egg」の価格は 10 個入り 8.40 SGD (約 970 円)、1 個当たり 0.84 SGD (約 97 円) と、地場産の中では高めの価格設定になっていた。

(2) Giant Express (DFI リテールグループ)

Giant Express は、主にマレーシア、シンガポールを中心に展開する量販店および小売チェーンである。デイリーファーム傘下の「Giant モール」として知られる Giant 量販店は 2023 年、地元マレーシアの実業家で起業家でもある Andrew Lim Tatt Keong 氏が率いる Macrovalue に買収された。買収後、Macrovalue は、Giant ハイパーマーケットを Giant モールとしてリブランドすることで多くの顧客を呼び込もうとする戦略を発表した。

Giant グループは現在、合計 55 以上の店舗を展開しており、その中にはオンラインショッピング (EC) が可能な Giant Express も 25 店舗含まれる。

今回視察に訪れた Giant Express アドミラルティ店は、シンガポール北部のアドミラルティ地区に位置する。同店では、マレーシア製鶏卵からなる Giant のプライベートブランド (PB) 品を除き、新鮮鶏卵は全てシンガポール産であり、常温で販売されていた。価格帯は、最も安い物で 1 パック 10 個入り 3.10 SGD (約 358 円)、最も高いもので 1 パック 10 個入り 4.65 SGD (約 537 円) だった。Giant の PB 製品は 15 個入りのパッケージで販売されており、4.70 SGD (約 543 円) であった。赤い殻を持つ鶏卵の取り扱い量が多く、陳列棚を見渡しても赤い面積が多くを占めているのが印象的である。

Cold Storage と Giant は同じ親会社によって運営されているが、それぞれ異なる顧客層をターゲットにしているため、取り扱う製品は大きく異なっている。シンガポール北部に位置する Giant は、駐在員や外国人

ではなく、地元住民やマレーシア在住者をメインターゲットとしているため、価格を重視した商品展開となっている。

(3) FairPrice (NTUC エンタープライズ)

FairPrice は、シンガポール最大のスーパーマーケットチェーンであり、100 以上のスーパーマーケットから成る NUTC (シンガポール全国労働組合会議) の協同体である。FairPrice はエクソンモービルと提携し、複数の駅で FairPrice ブランドのミニマート (売店) の運営も手掛ける。「シンガポールならではのもの」というスローガンが掲げられ、FairPrice スーパーマーケット、FairPrice Finest、FairPrice Xtra、FairPrice Shop、Cheers コンビニエンスストア、FairPrice Xpress、Unity 薬局などを運営している。EC チャンネルも保有しており、毎月 70 万人以上の利用者を誇るほか、生鮮食品流通センターと集中倉庫および流通会社も所有している。現在、日本産鶏卵は取り扱っておらず、NTUC との結びつきが強い同社ではシンガポール政府が推進する食料自給率向上というスローガンに反する輸入品の積極的な販売は、ハードルが高い可能性がある。

FairPrice アドミラルティ店では、マレーシア産鶏卵も多く取り扱われており、価格は 1 パック 10 個入り 3.20 SGD 前後 (約 369 円) だった。また、他のスーパーマーケットではあまり見られないブランドである Green-Tech Egg Industries Pte. Ltd. (シンガポール企業) が所有する Chuan Huat の販売が確認できた。この製品は、卵養殖業界で 40 年以上の経験を持つシンガポール所有の農場である Chuan Huat Poultry Farm にルーツを持つ。この製品にはパッケージに認証マークの掲示がないほか、SFA の Web ページにも掲載されていないため、SFA の認証を得ていない可能性が高い。この製品は日本産ではないが、ラベルには日本語平仮名で「えいせいてき たまご」と書かれていた。日本語を記載することで、製品の信頼性や安全性を高めようと試みているのかもしれない。その他、Chew's のサクラフレッシュエッグも常温販売されていた。この製品は日本の乳酸菌発酵技術 (特許取得済み) を利用して生産された特殊な飼料で飼育された鶏によって生産されている。価格は 10 個入りで 4.20 SGD (約 485 円)。

FairPrice Finest はより品質の優れたアイテムを揃える同グループのプレミアムラインの店舗であり、通常の FairPrice と比較すると小売価格はやや高めに設定されている。FairPrice Finest スコッツ店では、やや価格の高い製品を中心に様々な製品が幅広く展開されており、鶏卵は冷蔵棚と常温棚の 2 つに分かれて陳列されていた。Cold Storage では NuYolk シリーズのプレミアムブランドが販売されていたが、FairPrice Finest では NuYolk シリーズの一般ブランドの製品が取り扱われていた (なお、通常の FairPrice では両者とも展開されていない)。

(4) Prime Supermarket

Prime Supermarket は、プライムグループインターナショナルが運営する地場スーパーマーケットチェーンで、現在は島全体に 25 店舗を展開している。一部の店舗は 24 時間営業で、ブングルやジュロン・ウェストなど、シンガポールでも人口が多い HDB が立ち並ぶエリアに多数展開している。

Prime Choice は、Prime Supermarket のプライベートブランドであり、鶏卵はマレーシア産鶏卵が採用されている。また、オンラインで購入することも可能で、卵 30 個入りパックは 6.80 SGD (約 785 円) で販売されていた。前述の通り、住宅街を中心とした店舗展開であるため、家族向けの商品が多く、1 パック当たりの卵の数は多く、卵の大きさも大玉であった。今回視察に訪れたウッドランズ店は、マレーシアにほど

近いシンガポール北部の住宅街に位置する。このような立地条件からも、日本産やニュージーランド産といった輸入鶏卵が販売されていない実態の背景が見てとれる。

(5) Sheng Siong Supermarket

Sheng Siong は、地場系ディスカウントスーパーマーケットチェーンで、シンガポールに 70 店舗を展開する。製品やサービスは手頃な価格でわかりやすく、HDB 周辺などの住宅地に多く出店されている。地域密着型であり、住宅街という立地条件からもそのターゲット層は家族世帯であるため、卵も 30 個入りなどの大容量で販売されており、そのコストパフォーマンスが魅力だという。

鶏卵売場の棚の上段には新鮮鶏卵が並び、下段にはウズラ卵などの加工卵製品が販売されていた。30 個入りのパックは特売品で、1 パック 6.80 SGD (約 785 円) 。

(6) セブンイレブン

セブンイレブンは世界有数のコンビニエンスストアチェーンで、シンガポールには 467 店舗を展開しており、そのうち 318 店舗は 24 時間営業している。店舗はショッピングモールや住宅地の近くに位置しており、手軽に調理できる商品やすぐに食べられる調理済み商品を求める人々に多く利用されている。店舗では、「Hanjuku Quail Eggs」と書かれた調理済みウズラ卵が販売されており、パッケージは一部日本語も使用したデザインになっている。新鮮鶏卵の販売はされていない。

2. 日系スーパーにおける流通

(1) ドン・ドン・ドンキ

PPIH (パンパシフィック・インターナショナル・ホールディングス) 傘下のドン・ドン・ドンキは、日本のディスカウントスーパーマーケットで、日本国内の店舗 (ドン・キホーテ名義) と同様に、品揃えの豊富さと活気のある雰囲気気で人気を集めている。2017 年の初進出以降、現在は 15 店舗まで急速に拡大している。2024 年 9 月に視察に訪れた際には、店頭にて 3 種類の日本産鶏卵ブランドを確認できた。

今回はオーチャード本店とクラーク・キー店の 2 店舗の視察に訪れた。オーチャード本店は、オーチャードロードと東急ハンズやユニクロといった日系ショップが軒を連ねる 4 大ショッピングモール沿いに位置しており、クラーク・キー店と比較すると日本産鶏卵の品揃えも充実していた。同一商品が展開されている明治屋グレートワールド店と価格を比較すると、ドン・ドン・ドンキの方が安価で販売されていることが確認できた。また、一般鶏卵以外にも、KokonoE が製造・販売するプリンや半熟卵といった加工品も取り扱っている。シンガポール産の低温殺菌鶏卵も販売されており、価格は他スーパーよりやや安く、5.4 SGD (約 624 円) だった。

(2) Meidi-Ya シンガポール

Meidi-Ya (明治屋) は、グレートワールド店とミレニア ウォーク店の 2 店舗を展開する高級日系食料品店チェーンである。日本の特産品フェアやキャンペーンを頻繁に実施しているほか、独自の EC サイトでオンラインショッピングサービスも提供している。陳列された卵製品の大半は日本産であったが、他にもニュージーランド産やデンマーク産のプレミアム卵や、地場メーカーの低温殺菌卵や加工卵製品も販売されていた。

明治屋は様々なプレミアムブランド鶏卵を取り扱うが、日本産鶏卵以外にも競争力のある代替品があり、価格に敏感な消費者に対応していると言える。

(3) 伊勢丹

日本の高級百貨店である伊勢丹は、シンガポールに 3 店舗を展開しており、そのうちスコッツ店には生鮮食品売場が設置されている。鶏卵は常温売場と冷蔵売場に分かれて陳列されており、冷蔵売場では、日本産プレミアム鶏卵が積極的に販促されていた。卵売場横に並べられたトリュフ醤油と組み合わせて「究極の TKG」と銘打った POP と、「毎週木曜日に空輸」というメッセージでその新鮮さを大きくアピールしていた。冷蔵棚のうち 3 分の 1 以上は日本産鶏卵、もう 3 分の 1 がニュージーランド産とデンマーク産、残りの 3 分の 1 がシンガポール産鶏卵であった。

(4) J マート

日本産食品・食材の専門店である J マートは、センチュリースクエア、i12 カトン、スタービスタの 3 店舗を展開する。店舗は小規模で、面積も限られているが、2 種類の日本産鶏卵を販売していた

3. 伝統市場における流通

シンガポールには 107 の生鮮市場が存在し、一般的に、同一建物内で果物、野菜、魚介類、肉といった商品カテゴリごとに分かれて運営されている。市場の規模により、卵エリアが設置されていない場合もあり、例えばチャイナタウンの市場では専用エリアが設けられているが、アドミラルティの市場では棚の設置のみで特にエリア分けはされていないかった。

チャイナタウンの市場で販売されている鶏卵は、主にラージまたはエクストララージサイズだった。店主へヒアリングしたところ、大きいサイズの方が調理がやすく人気であり、主な顧客は近隣住民と、一度に大量に調達する必要があるレストランのオーナーやシェフなどだという。チャイナタウンの市場では、白色の卵 10 個入りが 3.40 SGD (約 393 円)、茶色の卵 10 個入りが 2.60 SGD (約 300 円)と、殻の色によって価格差があった。スーパーで販売される一般鶏卵は 3.0 SGD から 5.0 SGD (約 347 円から 578 円) 程度であり、市場で購入する方がややリーズナブルであると言える。



(写真) チャイナタウンの生鮮市場 鶏卵販売店外観 (2024 年 8 月撮影)



(写真) チャイナタウンの生鮮市場の鶏卵店 売り場の様子 (2024 年 8 月撮影)



(写真左) アドミラルティの生鮮市場 (2024 年 9 月撮影)

4. レストランにおける卵の流通

シンガポールでは、テイクアウトを含む外食が一般的な食文化である。楽天インサイトが 2022 年に実施した外食の習慣についての調査によると、「外食・テイクアウトする頻度」について、24.0%が「毎日 1 回以上外食する」「食事を買う」と答え、48.0%が「週に数回」、13.0%が「週に 1 回」と答えており、合計すると 85.0%以上は週に 1 回以上は外食またはテイクアウトをしていることになる。同じ質問の回答を日本と比較すると、週に 1 回以上外食またはテイクアウトをすると回答したのは 45.0%であり、シンガポールの忙しいライフスタイルが外食文化を後押ししていると言えるだろう。

(1) Ya Kun Kaya Toast

Ya Kun Kaya Toast は、シンガポール国内で約 70 店舗、アジアを中心とした世界 10 か国に合わせて約 120 店舗を展開しているシンガポールのカフェチェーン店で、日本にも支店を持つ。ホーカーセンターやフードコート、多数の地元のアウトレットなど広く出店している。店名にもある通り、シンガポールの名物料理としても知られるカヤトーストが看板メニューである。カヤトーストは、バターとカヤを添えたトースト 2 枚に、半熟卵とゴピ（甘い練乳コーヒー）を添えたシンガポールの定番朝食メニューで、シンガポールやマレーシアで朝食や 3 時のおやつとしてよく食べられている。同店のカヤトーストには 2 つの半熟卵が添えられる。半熟卵は加熱処理がされているため、サルモネラ菌は除去されているという。このように、シンガポールの国民食とも言えるカ

ヤトーストに卵が添えられていることから、シンガポールの食文化に卵は欠かせない存在であることが見てとれる。



(写真左) Ya Kun Kaya Toast ワンラッフルズプレイス店 調理風景

(写真中央) Ya Kun Kaya Toast メニュー

(写真右) カヤトーストに添えられた半熟卵

(2) EggSlut

EggSlut は、2011 年にシンガポールに 1 号店をオープンした、卵を使ったサンドイッチや様々なメニューを提供するカフェチェーン店である。現在は世界各地に出店しており、日本にも支店を持つ。店名の「EggSlut」という言葉は、2000 年代半ばに食通の間で人気のあった「何にでも卵をかけて食べる人」を意味している。アメリカにルーツを持つ同店らしく、特に西洋で広く浸透するアニマルウェルフェアへの理解を体現し、全てのメニューに平飼い鶏卵を採用している。使用されている鶏卵の産地などは明かされていないが、鮮やかな黄身の色が特徴的である。外国人の往来も多いオーチャードロードの中心部に位置しており、日々の暮らしの中で食べ物の味だけでなく倫理的な価値観も重視する動物愛好家達にとっても、魅力的なレストランの選択肢の一つとなっている。



(写真左) “Slut” マッシュポテトの半熟卵のせ、バゲット添え

(写真中央) “Bacon Egg & Cheese” スランブルエッグとベーコン、チーズをサンドしたハンバーガー

(写真右) EggSlut メニュー (<https://www.eggslut.com/>)

(3) アドミラルティ駅のホーカーセンター

ホーカーセンターは、シンガポールの多文化共生を体現する象徴的な場所であり、一品料理からセットメニューまで様々な料理が楽しめる。例えば、チキンライスやナシレマなどのマレー料理や、プラタなどのインド料理な

ど多彩な料理がラインナップしている。東南アジアの人気料理であるナシレマは、サクサクのアンチョビ、スパイシーなサンバル、固ゆで卵、キュウリ、ピーナッツがご飯の上に調味料としてトッピングされた料理で、一般的に、目玉焼きまたはゆで卵とともに提供される。下記写真の通り、ナシレマ以外にも卵を使ったメニューが多く提供されている。



(写真) アドミラルティ駅のホーカーセンターの様子、卵を使った料理を多数提供

また、小売店で販売されている場面はあまり見かけられなかったものの輸入量が多いタイ産鶏卵は、主にホーカーセンターなどの飲食店で使用されていると考えられる。シンガポールの TikTok で大きな話題になっている「ラニーエッグ」は、卵をメインに使用したホーカーメニューであり、Ang Mo Kio ホーカーに新しく開業した店舗では一品当たりタイ産鶏卵が 4 個使用されており、本格的なタイ料理を提供するため鶏卵を含む食材はタイから輸入しているという。



(写真左) Ang Mo Kio ホーカーのタイ産鶏卵を使用したレストランメニュー

(写真右) Ang Mo Kio ホーカーのタイ産鶏卵を使用したレストランメニュー

出典：<https://mothership.sg/2024/12/thai-running-egg-ang-mo-kio/>

(4) Bread Talk

BreadTalk は、シンガポールに本社を構え、中国、香港、マレーシア、タイなどの中国語圏および東南アジア諸国などに 600 店舗以上を展開するベーカリーチェーンである。シンガポール国内では、主に都市部や郊外のショッピングモールに出店していることが多く、惣菜パン、菓子パン、ケーキ、コーヒーなど、様々な商品を

提供している。早ければ朝 7 時にオープンし、朝食やランチに自宅やオフィスでパンを楽しみたい顧客のニーズに対応している。

視察に訪れた際には、塩漬け卵が入った惣菜パンの POP が掲示されていた。現地では味の濃い食べ物が好まれることもあり、その豊かな風味とすぐに食べられる利便性から、加工卵製品の需要は大きいことが窺える。



(写真左) BreadTalk チャイナタウンポイント店

(写真右) 塩漬け卵入り惣菜パンのプロモーション

(5) Tamago EN

Tamago EN は、シンガポールと香港に展開する卵専門レストランで、沖縄の自社農場で生産された卵のみを使用している。同店の看板メニューでもあるご飯の上に生卵（白身部分は泡立てられメレンゲ状になっている）をのせた TKG（たまごかけごはん）をはじめ、オムライス、どんぶり、オールデイベックファスト、パンケーキなどの様々なメニューが提供されている。

NNA によると、沖縄県からの鶏卵の輸出は増加傾向にあり、那覇に拠点を置く食品商社 EN Group Okinawa（同レストランの関連会社）は、シンガポールと香港への出荷を拡大している。日本からシンガポールに輸出された鶏卵輸出量のうち沖縄からの出荷量の割合は 2020 年の約 5 割から 21 年には約 6 割まで拡大しており、同店のオープンによって沖縄産鶏卵の輸出量が増加し、沖縄の卵製品の認知度や認知度向上につながっているという（シンガポールの Tamago EN は 2019 年にオープン）。



(写真) Tamago EN どんぶり 多彩な具材の上に特徴的な生卵がトッピングされている

(6) 天井てんや

天井てんやは、シンガポールに4か所展開する日系天井チェーンである。株式会社ロイヤルホールディングスのグループ会社であるテンコーポレーションは、YOTEI PTE LTDとフランチャイズ契約を締結し、「天井てんや」をオープンした。ゆで卵の天ぷらがのった天井やうどんメニューに加え、かつ丼などの卵を使ったメニューも多く展開している。



(写真左) Orchard Central 外観

出典：<https://tenya.com.sg/>

第5章 業界関係者からのヒアリング

シンガポールの養鶏業界の現状や鶏卵の流通、市場動向を把握するため、4名（大手鶏卵販売業者 A 社、主要鶏卵加工品販売代理店 B 社、日系大手高級スーパーC、日本料理店 D）の業界関係者にヒアリングを実施した。なお、インタビュー対象者の意見や見解は事実と異なる可能性があるが、そのまま記録する（インタビューは 2024 年 9 月に実施）。

1. 大手鶏卵販売業者 A

【会社概要】

シンガポールに拠点を置き、新鮮な鶏卵、畜肉、飲料水など日本の食品を幅広く輸入・販売する商社。主にスーパーマーケットやレストラン向けに商品を卸している。

【シンガポール市場環境】

- シンガポールでは、朝食に卵を食べる文化がある。
- 「生食はできない」という認識が広まっており、生卵を食べる習慣はない。
- シンガポールの朝食の定番であるカヤトーストと供される半熟卵は、通常約 6 分間加熱調理されており、サルモネラ菌は除去されていると考えられている。
- 国民の台所であるホーカーセンターで食事をする地元客が多い。ホーカーセンターでは、主にシンガポール産または低価格のマレーシア産の卵が使用されている。
- 平飼い卵やオーガニック卵の需要は高い。また、低温殺菌鶏卵を好んで食べている消費者も多い。なお、低温殺菌鶏卵は白身にも火を入れているため、メレンゲを作る際に泡が立たない。

【取扱商品】

- 2016 年から、日本産鶏卵を取り扱っている。2018 年末には顧客に 10℃ 以下での保存・販売管理を依頼することで賞味期限を延長し、海上輸送に着手。また、倉庫と冷蔵車両を保有し、4℃ 以下での保管管理と冷蔵配送を開始した。
- 日系大手ディスカウントストアには飲料水と鶏卵を卸しており、同店の販売する鶏卵の約 7 割は A 社の製品である。パック入り卵だけでなく自社製造した半熟卵やプリンなどの加工品も販売している。同店は日系ではあるが顧客の 7 割は地元客が占めており、シンガポール在住の日本人駐在員はメインターゲットとしていない。地元客も良質な卵を求めて、日本産鶏卵を購入する。
- 人件費、飼料価格、エネルギーコストの上昇などにより、鶏卵価格は上昇している。2017 年当時、一般的にシンガポール産鶏卵（生食用）の価格は 1 パック 3.90 SGD（約 450 円）前後だったが、現在では 5.50 SGD（約 635 円）前後まで上がった。なお、自社ブランドの日本産鶏卵の価格は、1 パック当たり 6.90 SGD（約 797 円）前後で販売されている。日本産鶏卵も鳥インフルエンザの影響などで価格は上昇したものの、円安の影響で大きくは上がっていない。

シンガポール産鶏卵価格の高騰により、日本産鶏卵との価格差は1パック当たり約1 SGD (約115 円) 程度である。

- 日系高級スーパーで自社製品は6個入り13.0 SGD (約1,502 円、1個当たり約250 円) で販売している。なおシンガポール産鶏卵は、1個当たり約15 セント (約17 円) で販売されている。
- 約70～80 軒のレストランに鶏卵を卸しており、半分が日本料理、残り半分はフレンチまたはイタリアンである。多くの日本食レストランはシンガポール人経営である。最近オープンした空港施設内の大手日系高級チェーンレストランや、ミシュランの星付きイタリアンレストランでも日本産鶏卵が使用されている。
- レストランは東南アジア最大のe コマースプラットフォームの1 つであるLAZADA を介して卵を発注する。最小注文数量 (MOQ) は通常100 SGD に設定している。このMOQ は他のディストリビューターに比べてやや低く、一部のディストリビューターはMOQ を400 ドルを設定しているようだ。

【鶏卵の流通】

- 自国で生産加工された低温殺菌鶏卵が出回っており、日本からシンガポールまでの距離と比較的変わらないオーストラリア産やニュージーランド産の平飼い卵やオーガニック卵が流通している。一時、オーストラリアでの鳥インフルエンザ発生により輸入ができなかった際は、卵製品の種類が減少していた。
- シンガポールでの3 つの農場では1 日に約150 万個の卵が生産されており、1日当たりの1日の平均消費量はおよそ450 万個であるといわれている。
- シンガポール産鶏卵は水っぽい印象がある。鶏は自分で温度調整ができないため、常に気温が高いシンガポールでは日本のような卵の生産は難しい。
- シンガポールは食品の多くを輸入に頼っているため、例えば、日本産鶏卵であれば日本語でラベルを作成し日本産とアピールするなど「産地」を分かりやすく表記することが重要。英語にしてみると、産地がすぐに判別しづらく、目立ちにくい。
- 香港の場合、GP センターの許可があれば輸出が可能のため、同じGP センターであれば全商品の輸出が可能である。一方、シンガポールはGP センターではなく農場単位で許可を取るため、複数の農場を持つ生産者は輸出可能な商品もあれば、輸出不可能な商品もあるというのが実態である。例えば自社が契約する大分県の施設では、平飼い卵を取り扱う農場のみ許可を得ているため、それ以外の卵は輸出できない。

【シンガポールでの日本産鶏卵取扱量拡大】

- 数多くの飲食店に卸しているが、中華料理店は含まれない。メニューに炒め物が多く、卵の違いがわかりにくいためと思われる。フレンチやイタリアン、フュージョン料理のレストランでは、黄身の色にこだわっているため、日本産鶏卵が好まれる傾向にある。

- スシロー、ゼンショー、ロイヤルホスト、ミスタードーナツなど、多くの日系レストランが続々とシンガポールに進出しているため、今後も新規参入する日系レストランは増えると予想している。
- シンガポールの人口は約 560 万人であること、政府が自国産の鶏卵生産拡大に注力していること、日本産鶏卵はすでに大手スーパーマーケットでも数多く出回っていること、飲食店の入れ替わりが比較的激しいこと等を踏まえて総合的に考えると、これ以上日本産鶏卵の取扱量を拡大していくのは難しいと感じる。
- 日本産鶏卵ならではの濃い黄身の色や甘みといった日本産鶏卵の魅力を最大限に引き出すことができるフレンチ・イタリアンレストランや 5 つ星ホテルなどをターゲットにする筋もあるが、選定されるまでの道のりは厳しく、また候補数にも限りがあるのが現実である。
- 平飼いや有機卵への需要が日本よりも大きく、この観点ではオーストラリア産やニュージーランド産が強い。日本産は人気だが売上に直結する訳ではないため、「日本産、平飼い、オーガニック」の 3 拍子揃った鶏卵を取り扱うことができれば、さらに需要を拡大できると考えている。

2. 主要鶏卵加工品販売代理店 B

【会社概要】

シンガポールに拠点を置く日系食品の輸入・卸売業者で、少量・多品種の商品をコンテナで輸入しており、日本のプライベートブランド商品やカスタムアイテムなど多彩な商品バリエーションを展開する。主要な取り扱いカテゴリは調味料（塩、砂糖など）と日本酒で、1981 年から 20 年以上の輸入実績を持つ。

【シンガポール市場環境】

- シンガポールでは、朝食に卵を食べるのが一般的である。人によってその調理方法は異なるが、スクランブルエッグのような洋風が多い。
- 卵は価格を重視され、最も手頃な価格の卵（シンガポール産であることが多い）を購入する人が多いと感じている。日本食レストランで焼き焼きとセットで日本の生卵を食べるような機会でない限り、購入する卵の種類や産地にこだわらないのではないかと。産地やブランドの差によって認知できる違いが少ないため、まずは価格が優先されるだろう。
- 日本産鶏卵はシンガポール産鶏卵より甘みがあると感じる。
- 卵のサイズが大きければ調理の際に何個も卵を使う必要がないため、大きいサイズの方が調理する人にとっては扱いやすい。
- シンガポール人は、距離が近くて最も便利なスーパーマーケットに行く傾向がある。
- シンガポールでは、卵は「肉」製品と見なされている。
- シンガポールでは、調理済み製品を食べることが一般的であるため、新鮮卵より加工済み卵製品の需要の方が大きい。また新鮮卵と比較すると加工済み卵製品の方が、輸入難易度が低い。

【取り扱い商品】

- 錦糸卵とキューピー卵焼き（どちらも冷凍品、-18℃で出荷）を船便で輸入している。なお、保管はサードパーティを使用。製品の賞味期限が約 6 か月から 1 年と長いため、同社ではこの 2 品目に絞ってビジネスを展開している（新鮮卵は取り扱わない）。
- 錦糸卵は Cold Storage や Fair Price などの一般スーパーの惣菜（お弁当）用のトッピングとして、キューピー卵焼きは居酒屋の寿司ネタなどに使用されており、このような製品の需要は高い。なお、キューピー卵焼きは日系大手ディスカウントストアの惣菜コーナーでも販売されており、ハーフサイズで 5.0 SGD（約 577 円）。
- 自社総売上高の 7 割は日系小売店、残りの 3 割は地場系スーパーとレストランである。
- 現在、SFA 認可を持つ日本産鶏卵加工商品は自社で取り扱う 2 品のみである。加工済卵製品については、Woah!Japan による加熱要件を通過する必要がある、キューピー卵焼きはスーパーに卸す前に SFA の検査を受ける必要がある。
- 発送注文には 1 か月かかり（9 月に注文した場合、10 月に到着）、その後の検査には 1〜2 週間を要する。検査自体はランダムだが、卵加工品を含む場合は毎回チェックされている。
- 同社では過去に、日本の水の輸入を試みたが、水をろ過するだけで加熱処理をしていないものと政府の承認を得ることが難しく、失敗した経験がある。

3. 日系大手高級スーパーC

【会社概要】

東京に本社を置く高級食料品店チェーンであり、一部卸売も実施している。シンガポール内に 2 店舗を展開する他、自社 EC サイトも運営している。

【シンガポール市場環境】

- グレートワールド周辺は住宅地で日本人学校の送迎バスの範囲内であるため、駐在員含む日本人居住者が多く、顧客の 7 割が日本人、3 割が地元客である。
- グレートワールド店が入居するモールには Cold Storage も入っており、多くの顧客は商品ごとに店舗を使い分けて利用している。
- 一方、ミレニア ウォーク店は逆で、顧客の 7 割が地元客、3 割が日本人である。オフィス街にあるため、平日はオフィスワーカーが多い。週末はセントーサから車で買い物に訪れる顧客も多い。
- シンガポール人の卵の消費量は多いが、自宅で消費するよりもホーカー等の外食で消費する機会が多い。シンガポール人は一般的にホーカーでの食事機会が多いため、日本産鶏卵を購入しているのは、日本人に限らず比較的時間に余裕のある富裕層だと考えている。
- シンガポール人やシンガポール在住の外国人の多くは日本を訪れた経験がある。そのため、日本産鶏卵に限らず、日本産食品の「日本での購入価格」を知っているため、シンガポールで倍以上の価格で販売されていることに違和感を感じることがあると思われる。

- 生卵を食す文化はほぼないが、一部の現地家庭は中華料理にシンガポール産の卵を使用し、生食の際には日本産鶏卵を使用するなど、機会によって使い分けている可能性はある。
- 単身でシンガポールに滞在している日本人駐在員も多く、彼らは 10 個入りパックよりも 6 個入りパックを好む傾向がある。卵に限らず、米も 5kg ではなく 2kg などの小さめサイズが好まれる。
- シンガポールは鶏卵・米に関する規制が厳しく、ライセンスを取得するために一月分の在庫を保有する必要がある。

【取り扱い商品】

- グレートワールド店とミレニア ウォーク店で扱っている鶏卵の品揃えは同じだが、グレートワールド店の方が売上が良い。隔週で、両店あわせておよそ 100 パックの鶏卵を仕入れている。
- 以前（2022～2023 年頃）鳥インフルエンザの影響でマレーシア産鶏卵からの供給が一時的に停止したことがある。マレーシア産鶏卵を使用した同社の PB 品はその時から供給が止まり、現在も復活できていない状況にある。この時は、日本産鶏卵の販売量が一時的に増加したように感じた。それ以外では、S 社の卵の供給が一時的に鳥インフルエンザの影響で減少したことはあるが、同じ日本産である K 社の卵でバランスを取ることができた。
- 日本産鶏卵の価格は過去 3 年間で約 2 SGD ほど上昇し、9.8 SGD（約 1,132 円）から 12.0 SGD（約 1,386 円）になっている。シンガポール産鶏卵の価格は比較的安定しているが、約 1 SGD ほど上昇しているように感じられる。これは鳥インフルエンザの影響というよりも、人件費や家賃の上昇が原因だと考えている。

【シンガポールでの日本産鶏卵取扱量拡大】

- シンガポールの北部と中央部では、販売されている商品が異なる。北部では日本の商品や日系スーパーはあまり見かけないが、中央部では日本人や、日本産食品に興味があり購入可能な比較的富裕層のシンガポール人をターゲットにした様々な商品が販売されている。
- 小売店よりもレストランに日本産鶏卵が流通していると思われる。シンガポールは共働きで外食文化が根強いので、「クオリティの高い食品・食材」を求めて日本産鶏卵を使用したメニューのレストランを訪れるお客様はいるかもしれない。
- スーパーではなく、レストランをターゲットにすることが推奨される。デザートを販売するレストランやパティシエをターゲットに、日本産鶏卵の USP をアピールすることができるのではないかと。日本のパティシエや西洋料理シェフを活用したプロモーションを行うと良いかもしれない。
- オムレツなどの加工卵製品はスーパーマーケットで販売可能であり、外食文化や共働き家庭が多いシンガポールにおいては需要が高いと考えられる。
- ホーカーで食事を済ませる現地の人が多いので、かつて一部のシンガポール人は電子レンジを持っていなかった。コロナ以降はテイクアウトをして自宅で食事をする人が増えたため、電子レンジを購入する流れが生まれ、コンビニなどでもパック食品が販売されるようになった。現在なら、日本産鶏卵を使用したお弁当の販売は日本産鶏卵使用機会の一つとして有効かもしれない。

- 宗教的な観点から、シンガポールでは「ハラル」のラベルが重要である。認証取得は難しいが（時間がかかる）、効果的である。日本産鶏卵商品のパッケージにこのラベルを貼ることで、新たなマーケットに認知してもらえるのではないか。
- 経済的に安定してくると、健康的な商品やサステイナブルな商品を好んで購入する傾向が見られる。シンガポールでは健康志向の人も増えているため、日本産鶏卵の商品パッケージで健康的な商品（ビタミン E 豊富などの表記）であれば、アピールしやすいと思われる。

4. 日本料理店 D

【店舗概要】

ミシュラン「ビブグルマン」に選出されたこともあるとんかつ専門レストラン。オフィス街の中にあるタンジョン・パガー・センター店と、多くの外国人も暮らす住宅街の中にあるスタービスタ店の 2 店舗を展開している。

【シンガポール市場】

- シンガポールでは、卵を全く加熱せず生食することに抵抗がある人が多い。朝食に半熟卵に醤油をかけて食べる文化がある一方で、ご飯の上に生卵をのせて食べることは受け入れられにくい。生食に限らなければ、卵はなじみ深い食材であり、同店でも様々な卵を使った料理を提供している。
- シンガポールでは、食品や飲料の砂糖と塩分に関するガイドラインがあるため、消費者は敏感である。卵を料理に用いることで、塩分を足さずにコクを付加できるため、卵料理は人気である。
- 「とんかつ」をご飯と一緒に食べるという文化はない。もともと揚げ物を食べる文化はあるが、単品料理として食べられる（ご飯とセットにはしない）。同様に、温泉たまごも単品のおかずとして受け入れられている。

【取扱商品】

- シンガポール産の低温殺菌卵と半熟卵を使用している。日本産鶏卵と比較すると風味はやや劣るが、費用対効果が高く、年間を通じて安定的に手に入れることができる（以前は日本産鶏卵を使っていたこともあるが、鳥インフルエンザの流行で輸入が停止し困った経験がある）。
- 同店では、様々な卵とじメニューや温泉たまごなど、卵を使用したメニューを多く提供している。卵とじには 1 食当たり 3 個、各店舗で 1 日に約 70 個の卵を使用している。
- 卵とじに使用する卵と温泉たまごに使用する卵は別のものを使っており、サプライヤーも分かれている。卵とじは LIM KIAN SENG FOOD SUPPLIER から、温泉たまごは N&N Agriculture から納品される。店舗で保管できる数に限りがあるため、冷蔵で毎日配達される。
- 卵以外では、豚肉（北海道産）や米、調味料などは日本産を使用している。このような日本産食品・食材は、西原商会、JFC、誠屋などの一般的な食品問屋から調達している。

- 日本産鶏卵を使うことを顧客から特に求められていない。実際に、シンガポールの卵はより日本産鶏卵と比較してマイルドでクリーミーであり、顧客からも好まれていると感じる。

第 6 章 まとめ

1. シンガポールにおける鶏卵の需給動向

シンガポールでは農産物の生産に必要な土地が限られており、現在、食料供給の 9 割を輸入に頼っているため、国際問題や気候変動による世界的なサプライチェーンの混乱に備えるべく、特定の供給源への依存を減らし、輸入源の多様化を進めている。合わせて、2030 年までに食料自給率 30%を目指す計画「30 by 30」を推進しており、国民のより安定した食料供給基盤を構築できるよう努めている。

2023 年時点で、国内で消費される殻付きの鶏卵の割合は輸入品が 7 割、国内生産品が 3 割となり、水産物や野菜と比べると国内生産割合が高い。また、国内最大の養鶏場となるイセ・フーズ・ホールディングス（IFH）の農場が開業すると、完全稼働時には国内需要の最大 5 割を満たすことが可能になると予想されており、政府の目標である「30 by 30」達成に大きく近づくことになる。

シンガポールでは、健康志向の消費者が増加しており、ビタミン E やオメガ 3・6 などが付加された栄養価の高い鶏卵や、低温殺菌された「生食可能」とされるシンガポール産鶏卵が小売店で広く販売されている。また、グローバルなビジネスハブとして発展するシンガポールでは西洋系外国人の移住者も多く、SDGs 等の推進によりエシカル消費の考え方も広く知られるようになっている背景から、「健康な家畜による鶏卵」として、平飼い鶏卵も多く流通している。また、イスラム教徒の数も多いため、ハラール食品であることもアピール材料の一つとなりうる。多様な人種がともに暮らすシンガポールという環境ならではの多様な商品バリエーションを展開されている一方、必ずしも全ての消費者がこのような付加価値の高い商品を求めている訳ではなく、一般的で手頃な価格の商品も消費者の用途や嗜好に応じて、引き続き需要がある。

シンガポールでは共働き家庭が一般的であり、日常的に外食やテイクアウトが利用されている。多くの国民が暮らす HDB の 1 階にはホーカーセンターが入っていることが多く、朝食～夕食までこのような施設を利用する家庭も多い。ホーカーセンターで提供されるメニューは安価で、鶏卵を使ったメニューも多いが、使用される鶏卵は主にシンガポール産、タイ産、マレーシア産である。シンガポールにおける鶏卵の流通を分析するためには、小売店での販売状況に加えて外食店での流通についても考慮する必要があるだろう。

2. 日本産鶏卵のシンガポールへの輸出拡大に向けた課題

2023 年時点で、シンガポールが輸入する鶏卵の 6 割以上はマレーシア産であり、次にタイ産が続く。日本産鶏卵の輸入は 1%に満たないものの、日系スーパーやレストランだけでなく、地場系スーパーにも流通している。日本産鶏卵は、国際輸送費用に加え、CIF 価格（FOB 価格＋保険料＋運賃）に関税、物品税、手数料、GST（財・サービス税 7%）を納付する必要があるため、シンガポール産鶏卵小売価格の 1 個 0.3～0.8 SGD（約 35～92 円）に比べると、高値での販売となっている。

シンガポールにおいて鶏卵は食料自給率向上のための重要な品目であり、新たな農場の開業や生産能力の拡大といった生産量拡大のための積極的な取り組みが推進されている。これにより、今後はさらに輸入に頼ら

ず、よりフレッシュで「安心・安全」な鶏卵を生産できる環境が整備される見込みである。そのため、日本産鶏卵の輸出拡大のためには、シンガポールの消費者の志向に合った付加価値の高い商品バリエーションと販売戦略が必要になるだろう。例えば、「日本産」というブランドだけでなく、「平飼い」や「オーガニック」などの別の付加価値もかけ合わせて、製品の質の高さを消費者に訴求することなどが考えられる。また、シンガポールでは朝食などで卵料理を食べる機会も多いため、ホーカーセンターなどで日常的に食べ慣れている卵と日本産鶏卵の味の違いをアピールできる機会を作ることも効果的だと考えられる。今回実施した関係者へのインタビュー調査によると、イタリアンやフレンチなどの高級料理店ではその品質の高さや鮮やかな黄身の色合いで日本産鶏卵は人気だという。日常的に外食機会が多く、購買力の高い消費者が多いシンガポールだからこそ、このような高級レストランと協業した日本産鶏卵のプロモーションも有効な手段の一つになりうる。さらに、シンガポールにはイスラム教徒が多く存在するため、ハラール認証を取得することで新たな市場にアプローチしていくことも重要な鍵となると考えられる。

参考文献

第1章 シンガポールの基礎情報

- JETRO「シンガポール概況・基本統計」
参照先：https://www.jetro.go.jp/world/asia/sg/basic_01.html
(最終閲覧日：2025 年 1 月 7 日)
- 外務省「海外在留邦人数調査統計」
参照先：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100781392.pdf>
(最終閲覧日：2024 年 11 月 10 日)
- みずほ銀行「外国為替公示相場」
参照先：<https://www.mizuhobank.co.jp/market/quote.html>
(最終閲覧日：2025 年 1 月 27 日)
- JCCI「シンガポール日本商工会議所」
参照先：<https://www.jcci.org.sg/about-jcci/overview/>
(最終閲覧日：2024 年 11 月 10 日)
- Department of Statistics Singapore「National Accounts」
参照先：<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-bytheme/economy/national-accounts/latest-data>
(最終閲覧日：2025 年 1 月 27 日)
- Macro Trends「Singapore Imports 1960-2025」
参照先：https://www.macrotrends.net/global-metrics/countries/SGP/singapore/imports#google_vignette
(最終閲覧日：2025 年 1 月 27 日)
- Macro Trends「Singapore Exports 1960-2025」
参照先：
<https://www.macrotrends.net/globalmetrics/countries/SGP/singapore/imports>
(最終閲覧日：2025 年 1 月 27 日)
- Department of Statistics Singapore「Key Household Income Trends, 2023」
参照先：<https://www.singstat.gov.sg/-/media/files/news/press07022024.ashx>
(最終閲覧日：2024 年 11 月 11 日)
- Department of Statistics Singapore「KEY INDICATORS OF THE HOUSEHOLD EXPENDITURE SURVEY, 2007/08 – 2017/18」
参照先：<https://www.singstat.gov.sg/->

/media/files/find_data/population/statistical_tables/hes201718-key-indicators.pdf (最終閲覧日 : 2024 年 11 月 11 日)

- A Singapore Government Agency Website 「Singapore's Food Challenge」
参照先 : <https://www.sg101.gov.sg/economy/case-studies/sg-food-challenge/>
(最終閲覧日 : 2024 年 11 月 15 日)
- Singapore Food Agency 「Singapore Food Statistics 2021」
参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/publication/sg-food-statistics/singapore-food-statistics-2021.pdf>
(最終閲覧日 : 2025 年 1 月 29 日)
- Singapore Food Agency 「Singapore Food Statistics 2023」
参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/publication/sg-food-statistics/singapore-food-statistics-2021.pdf>
(最終閲覧日 : 2025 年 1 月 29 日)

第 2 章 シンガポールにおける鶏卵の生産と流通

- Singapore Food Agency 「Singapore Food Statistics 2021」
参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/publication/sg-food-statistics/singapore-food-statistics-2021.pdf>
(最終閲覧日 : 2025 年 1 月 29 日)
- Singapore Food Agency 「Singapore Food Statistics 2023」
参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/publication/sg-food-statistics/singapore-food-statistics-2021.pdf>
(最終閲覧日 : 2025 年 1 月 29 日)
- Ise Foods Holdings 「Singapore's 4th egg farm, backed by Japan's top egg producer, to operate from 2024」
参照先 : <https://www.isefoods-holdings.sg/news/20221026-1#:~:text=When%20fully%20operational%2C%20the%20farm%20will%20have%20the,firm%20signed%20with%20the%20SFA%20in%20September%202021.>
(最終閲覧日 : 2024 年 11 月 15 日)
- CNA「Inside the high-tech operations of Singapore's largest egg farm」
2019 年 3 月 31 日
参照先 : <https://www.channelnewsasia.com/cnainsider/inside-high-tech->

[operation-singapore-largest-egg-farm-seng-choon-897076](#)

(最終閲覧日 : 2024 年 12 月 10 日)

- Singapore Food Agency 「Nurturing the local agri-food sector with SG Fresh Produce logos and the AfA on Local Produce Demand Offtake and Consumer Education」

参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/nurturing-the-local-agri-food-sector-with-sg-fresh-produce-logos-and-the-afa-on-local-produce-demand-offtake-and-consumer-education>

(最終閲覧日 : 2024 年 11 月 10 日)

- Singapore Food Agency 「Halal Certification」

参照先 : [https://www.gobusiness.gov.sg/browse-all-licences/majlis-ugama-islam-singapura-\(muis\)/halal-certification](https://www.gobusiness.gov.sg/browse-all-licences/majlis-ugama-islam-singapura-(muis)/halal-certification)

(最終閲覧日 : 2024 年 11 月 10 日)

- Majlis Uganda Islam Singapura (Islamic Religious Council of Singapore)

参照先 : <https://www.muis.gov.sg/>

(最終閲覧日 : 2024 年 11 月 10 日)

- Singapore Food Agency 「Understanding the Food Safety Management System (FSMS)」

参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/regulatory-standards-frameworks-guidelines/food-safety-management/understanding-food-safety-management-system-fsms#:~:text=A%20FSMS%20is%20a%20holistic%20system%20of%20controls,of%20food.%20How%20do%20I%20implement%20a%20FSMS%3F>

(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 4 日)

- Singapore Food Agency 「N&N Agriculture」

参照先 : <https://www.sfa.gov.sg/fromSGtoSG/farms/farm/Detail/n-n-agriculture>

(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)

- Chew's Agriculture

参照先 : <https://www.chewsegg.com/>

(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)

- The Business Times 「Chew's Agriculture signs 10-year S\$27m sustainability-linked loan with DBS」 2019 年 5 月 29 日

参照先 : <https://www.businesstimes.com.sg/companies-markets/banking->

[finance/chews-agriculture-signs-10-year-s27m-sustainability-linked-loan](https://www.finance.chews-agriculture-signs-10-year-s27m-sustainability-linked-loan)

(最終閲覧日：2025 年 2 月 3 日)

- JETRO「鶏卵の輸入規制、輸入手続き等」

参照先：<https://www.jetro.go.jp/world/asia/sg/foods/exportguide/egg.html>

(最終閲覧日：2025 年 2 月 3 日)

第3章 貿易動向

- Enterprise Singapore「STATLINK」 Singapore Trade Statistics

参照先：<https://statlink.enterprisesg.gov.sg/>

(最終閲覧日：2025 年 1 月 31 日)

- 税関「輸出統計品目表」

参照先：https://www.customs.go.jp/yusyutu/2025_01_01/index.htm

(最終閲覧日：2025 年 2 月 3 日)

第4章 鶏卵の販売・消費動向

- A Singapore Government Agency Website「Online Retail Sales Proportion」

参照先：

https://data.gov.sg/datasets/d_65e4d47c3616d251f9a84ec1ad28f43c/view

(最終閲覧日：2024 年 10 月 3 日)

- Singapore Agro-Food Entreprises Federation Limited

Supporting Greater Food Resilience for Singapore – Egg Farmer, Ma Chin

Chew of N&N Agriculture 2020 年 7 月 1 5 日

参照先：<https://safef.org.sg/blog/sg-bio-egg-farmer-ma-chin-chew-nn-agriculture/> (最終閲覧日：2024 年 10 月 3 日)

- シンガポール統計局「Licensed Food Establishments」

参照先：

https://data.gov.sg/datasets/d_a9e81ab29216b10b69e23e7957b680b9/view (最終閲覧日：2024 年 10 月 3 日)

- Cold Storage ウェブサイト

参照先：<https://coldstorage.com.sg/> (最終閲覧日：2025 年 2 月 3 日)

- Giant Express ウェブサイト

参照先：<https://giant.sg/> (最終閲覧日：2025 年 2 月 3 日)

- NTUC Enterprise ウェブサイト
参照先 : <https://www.ntucenterprise.sg/wp-content/uploads/2024/04/NE-Annual-Report-2023.pdf> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- FairPrice ウェブサイト
参照先 : <https://www.fairprice.com.sg/our-retail-formats/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- DFI Retail Group ウェブサイト
参照先 : <https://www.dfiretailgroup.com/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Prime Group International ウェブサイト
参照先 : <https://www.pgi.sg/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Sheng Siong ウェブサイト
参照先 : <https://corporate.shengsiong.com.sg/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- ShoppinSG 「7-Eleven Singapore」
<https://shopsinsg.com/7-eleven-convenience-stores-in-singapore.html>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- DON DON DONKI ウェブサイト
参照先 : <https://www.dondondonki.com/sg/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Meidi-Ya ウェブサイト
参照先 : <https://www.meidi-ya.com.sg/en/default.asp>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Isetan Singapore ウェブサイト
参照先 : <https://www.isetan.com.sg/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- J-mart ウェブサイト
参照先 : <https://shop.j-mart.com.sg/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Rakuten Insight 「Dining out habits in the new normal」
参照先 : https://insight.rakuten.com/wordpress/wp-content/uploads/RI_Dining_out_habits.pdf (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Ya Kun Kaya Toast ウェブサイト
参照先 : <https://app.yakun.com/about-us> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Egg Slut ウェブサイト
参照先 : <https://www.eggslut.com/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)

- 8 days「Ex-Banker Opens Stall Selling Thai Runny Egg Rice Inspired By TikTok-Viral Bangkok Restaurant」 2024 年 12 月 5 日
参照先 : <https://www.8days.sg/eatanddrink/hawkerfood/ex-banker-opens-stall-selling-thai-runny-egg-rice-inspired-tiktok-viral-bangkok-restaurant-running-egg-838916> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Mothership SG「Thai-inspired runny egg rice from S\$5.80 at Ang Mo Kio」 2024 年 12 月 24 日
参照先 : <https://mothership.sg/2024/12/thai-running-egg-ang-mo-kio/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- Bread Talk ウェブサイト
参照先 : <https://www.breadtalk.com.sg/our-story/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- NNA「沖縄県の鶏卵輸出が増加基調」 2022 年 11 月 4 日
参照先 : <https://www.nna.jp/news/2415163>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- たまご園 ウェブサイト
参照先 : <https://tamagoen.com.hk/about-us/>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- シンガポール新聞「天井てんや、10 月 15 日にシンガポール 1 号店がオーチャードにオープン」
参照先 : <https://singaporeshimbun.com/?p=10412>
(最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)
- 天井てんやウェブサイト
参照先 : <https://tenya.com.sg/> (最終閲覧日 : 2025 年 2 月 3 日)

注釈 :

- ・本調査報告書内におけるシンガポールドル (以下、SGD) の日本円レートは、2025 年 1 月 27 日現在のみずほ銀行外国為替参考相場仲値を使用し、1 SGD を 115.51 円として換算した。
- ・本調査報告書内の写真について、出典記載のないものは Jupiter Global Limited の撮影による。